

序 — 歴史のはじまり — 高松琴平電気鉄道の鉄道路線は、かつての高松電気軌道、東讃電気軌道および琴平電鉄の3社がそれぞれ経営していた3本の鉄道路線から成り立っている。3社のうちで最も早く誕生したのは高松電気軌道で、その設立は明治42年(1909)10月28日のことである。

従って、会社の歴史は今からちょうど80年前、この高松電気軌道創業の日に始まる。

創業の時代

高松電気軌道株式会社



明治末期、高松電燈株式会社の社長であった北村苟吉氏は、高松から木田郡中部を経て、大川郡長尾町に至る軌道の建設を計画し、大西行禮氏(現社長祖父)外地方有力者の協力を得て、電気軌道敷設の特許を出願し、明治40年5月30日付で特許を得た。同年6月27日高松市内町で創立発起人会を開催、同42年10月28日高松市内町の県公会堂で創立総会を開いて会社を設立した。資本金は300,000円、社長は小田知周氏、専務は北村苟吉氏であった。

用地買収は順調に進み、将来の複線化に備えて全線約8mの幅員を確保、



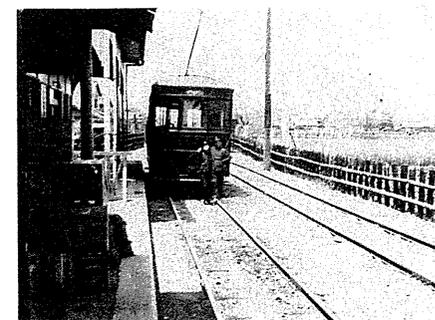
電柱に杉材を用い、30m間隔のスパン式とした。木田郡亀田村北亀田にはバブコック、ウィルコック社製の水管式ボイラー2台と、ゼネラルエレクトリック社製の600V、100KWの直流発電機を装置した火力発電所を建設した。

明治45年に四輪電動客車5輛、大正2年に4輛を購入した。1輛当たり4,244円であった。また電動貨車は1輛あたり3,480円で同45年と大正2年に各々1輛を購入した。

明治45年4月30日出晴-長尾間14.5km所要時分56分、20分毎の運転で営業を開始した。運賃は片道全線21銭であった。専務北村苟吉氏は、また電気供給事業を付帯事業として行い、出晴に開閉所を設け3,000V単相の高圧配電線を電車線用電柱に共架して、高松電燈の内町発電所から受電、大正4年8月16日から配電を開始した。

営業は順調であったが、昭和12年7月勃発の日華事変以降戦時色が濃厚となるにつれて、成績は次第に降下し、配電事業は昭和16年8月の配電統制令により、翌年12月四国配電株式会社に譲渡することになった。

交通事業調整の国策に沿って、昭和18年10月12日臨時株主総会を開き、香川県東部の電鉄3社を統合して新会社となった高松琴平電鉄に、運輸事



開通当初長尾駅構内の高松電気軌道電車



高松電気軌道1型電車

業とその付属財産を現物出資することを決議して、会社は解散した。

讃岐電鉄株式会社

 明治43年5月1日大阪商業会議所で創立総会を開催、東讃電気軌道株式会社が設立された。資本金1,000,000円、社長は三弊保、専務熊谷少間の両氏であった。

明治44年秋に今橋－志度間12.1kmの路線敷設が完成し、同年11月18日開業した。電車は12分毎の運行で、片道運賃19銭であった。第2期工事のうち今橋－出晴間は大正2年10月15日、栗林公園前までは翌々年4月22日完成した。

その頃公園前から築港に至る新道路が開通したので、新たに同区間(2.29km)に軌道法による路面電車を建設することになったが、役員の不祥事による欠損からの立ち直りが遅く、大正5年12月25日四国水力(株)への合併手続きを終え、翌日から同社の電車部門として発足した。

 四国水力(株)は合併後、懸案であった市内線延長計画を引き継いだ。電気軌道条令の適用もあって、工事は大巾に進捗し、大正6年



市内八本松停留所附近 朝の通学風景

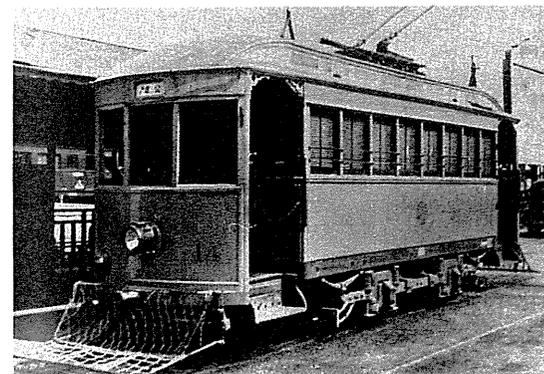
5月20日に高松駅前まで、7月14日には築港まで開通することが出来た。

これによって、電車利用客は急激に増え、営業成績が著しく向上した。運賃は志度－公園前を7区とし1区3銭、公園前－築港間3区で1区2銭であった。大正7年2月新車(4輪車)4輛を購入したので、市民の交通は一層便利となり、市民からチンチン電車の愛称で利用された。

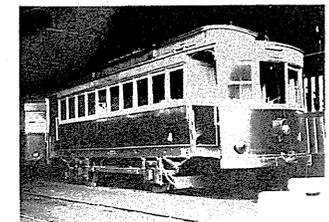
昭和2年4月知事の許可を得て公園前－築港間の軌道複線化工事に着手、翌3年3月10日高松駅前まで完成、15日には新車輛(ボギー車)6輛を購入して開催中の産業博覧会で活躍した。ついで高松駅前－築港間も翌々年4月に着工し、僅か1ヵ月間で完成させて市内線の複線化は完了した。

昭和13年から16年にかけての「電力国策要綱」「日本発送電株式会社法」「配電統制令」など一連の統制法令により、四国水力は電気鉄道とガス事業を残すのみとなり、さらに「陸上交通事業調整法」が成立するに及んでついに讃岐電鉄と讃岐瓦斯に分離することになった。

昭和17年3月17日讃岐電鉄株式会社設立の許可を得た同社は、四国水力と高松乗合(出晴－長尾間、出晴－西植田間)の両社から現物出資を受け、同年4月30日資本金1,800,000円で営業を開始した。社長は田中隆氏であった。



市内線築港停留所での讃岐電鉄10型電車



今橋車庫入庫中の1型電車

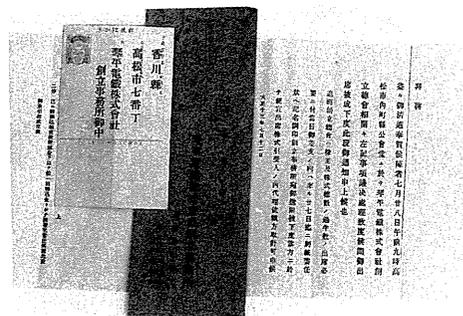
一方、昭和15年2月1日に公布の「陸運統制令」により、業界内には交通事業統合の気運が高まり、昭和18年10月12日臨時株主総会で新会社高松琴平電鉄に現物を出資することを議決して同社は解散した。

琴平電鉄と傍系会社

大西虎之介氏を中心とする琴平電鉄

 大正8年9月、讃岐の名門で、早くからその識見を高く評価されていた大西虎之介氏、電力業界に名を知られた景山基右衛門、鎌田勝太郎、福沢桃介氏など有力者が発起人となり、高松-琴平間の「電気鉄道敷設免許申請」を行った。翌9年2月7日免許状は交付されたが、第1次世界大戦後の不況で計画は頓挫したままであった。

大正13年初頭大西虎之介氏は、寒川恒貞、細溪宗次郎氏など県内有力者と語り、檄をとばして発起人の奮起を促し、自らも大量の株式を引受け、会社設立を軌道に乗せた。当時の香川新報はその状況を次の様に報じている。「資本金五百萬円の琴高電鉄具体化す、其の内四百萬円は発起人が引受けた…中略、かねての懸案であった琴高電鉄、即ち琴平電鉄株式会社は漸



琴平電鉄創立総会案内状



運輸開始許可電報

く具体化し、歴大な資本金五百萬円も発起人大西虎之介氏、細溪宗次郎氏、…略 等、錚錚たる資産家連の事として四百萬円は苦もなく引受…以下略。」

大正13年7月28日創立総会を県公会堂で開き、次の通り役員を決めた。

代表取締役 大西虎之介 細溪宗次郎

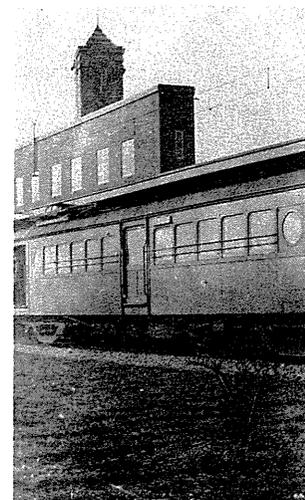
取締役 合田房太郎 熊田長造 武田謙 中村實 瀬尾等

川崎舎恒三 竹内秀輔

監査役 加藤謙吉 三輪繁太郎 川崎友之介 今井傅太 中村新太郎

同年10月2日取締役会で複線化計画を議決したが、取りあえず単線とし、順次複線化することで用地の買収を進め、翌年10月までに約102,000坪(337.19[㍎])の用地買収を終えた。一方沿線民家に対する電気供給事業も行いこととなり、同年6月15日に岡田電燈株式会社を買収して電気事業も兼営した。

建設工事は用地取得と同時に着手、大西虎之介社長自らが設計にかかわったため、駅舎などは京阪神地区の各駅にも遜色のないユニークなものとなった。



開通時の瓦町駅構内 立派な尖塔が見える



夏草に覆れた琴平電鉄創業時代のホーム跡

大正15年4月橋梁工事を竣工、畑田変電所には1500V用としてドイツシーメン

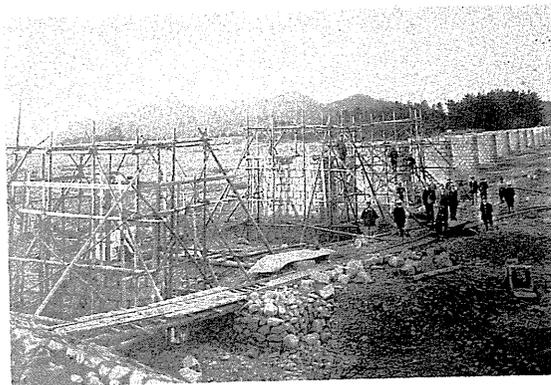
ス、シユッケルト製600KW水銀整流器2台と70KVAの変圧器3台等を設置し、当時としては時代の先端を行く半鋼製ボギー車も採用して、大正15年12月21日に先ず栗林公園-滝宮間(17.8km)を開通した。

翌昭和2年3月15日には滝宮-琴平間(12.3km)、さらに同年4月22日に栗林公園-瓦町間(1.2km)を開通して、全線31.3kmが終わった。

これに先立つ3月15日、香川新報社では開通記念号の特別記事を発表して、会社の事業を称賛した。翌16日の紙上で大西虎之介社長は歓びの談話を発表して、沿線町村有志の協力を感謝するとともに、さらに沿線開発など将来へ向っての抱負を述べた。電車は20分毎の運行で所要時分1時間5分、運賃は全区間65銭であった。

ところが、開通した昭和2年に起きた金融恐慌は全国に波及し、業績は振わず、地方鉄道補助法に基づき昭和3年10月期から政府補助金の交付を受けた。また昭和4年に起った世界恐慌で、不況は一段と深刻となり、同15年10月期まで延べ25回にわたり交付を受けた。

昭和6年大西虎之介社長は貴族院議員補欠選挙に当選し、翌7年も再選され、その後は専ら中央政界で活躍することとなったので、舎弟大西禎夫氏が昭和12年6月常務取締役役に就任して経営に参画した。

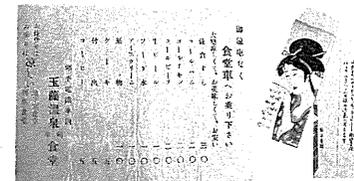


建設進む土器川橋梁

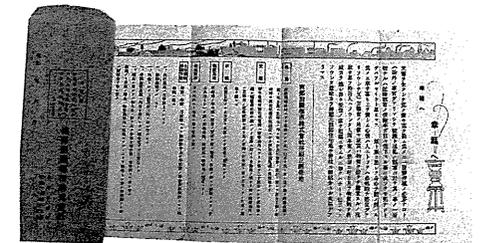
昭和13年7月業績不振の塩江温泉鉄道を吸収合併し、同社は琴電の塩江線として発足したが、戦局の重大化によるガソリン使用規制や、同年9月台風による橋脚倒壊などのため、事業継続に重大な支障を生ずるにいたり、会社はついに営業廃止を決意し、運輸営業廃止を申請のうえ、昭和16年5月10日限りで運行を中止した。

会社はその後営業活動の成果もあり、昭和16年4月期以降は政府補助金の交付がなくても、年2分程度の配当金支払が可能となり、昭和18年4月期には借入金を完済する程経営内容は好転していた。時局は昭和12年勃発の日華事変がますます激化拡大し、昭和16年12月太平洋戦争に突入した。昭和17年5月30日に鉄道軌道統制令が成立して、地方鉄道、軌道も重要陸上輸送機関として、使命達成の為輸送に全力をあげて業務の簡素化と能率化を図らなければならない事態となり、戦局の進展による交通統制が国策として強く要請されるにいたった。

昭和18年に入り、香川県東部の3社は琴平電鉄を主体として、讃岐電鉄、高松電気軌道を統合して、新会社を設立することとなり、琴平電鉄では同年10月高松市千代田生命ビルで、臨時株主総会を開催し、新会社の発起人となること、及び同社の運輸事業と付属財産を現物出資すること、を決議して同年11月1日新会社高松琴平電気鉄道(株)を設立した。



食堂車メニューとチップ袋



沿線開発の先駆 挿頭丘経営地分譲パンフレット

激動の時代

高松琴平電気鉄道(株) 誕生 昭和18年11月香川県東部地区の琴平電気、讃岐電鉄、高松電気軌道の3社は、当局の指導のもとに、陸上交通事業調整の主旨に沿って、企業合同を行うことになり、それぞれ所有財産を現物出資し、新会社高松琴平電気鉄道株式会社を設立した。出資内訳及び役員は次のとおりであった。

代表取締役社長 大西虎之介

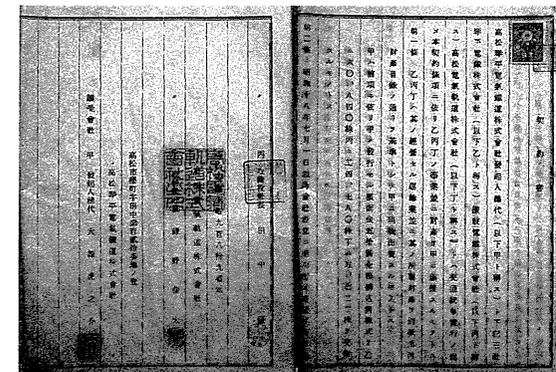
代表取締役 大西禎夫 田中隆

取締役 鎌野藤太 日下音吉 武田謙 中村實

監査役 熊田長造 細溪宗次郎 鎌田憲夫

さらに1ヵ月遅れてバス事業の統合も行われ、東讃地区15業者も現物を出資の上新会社に合併した。

その後、戦局はますます緊迫の度を加え、決戦体制となり、昭和19年度第2次鉄軌道回収指令により、翌20年1月21日志度線八栗-志度間(5.9km)の軌道撤収を申請、同月26日から運転を休止、軌道を撤去した。



新会社設立契約書

戦災と復興

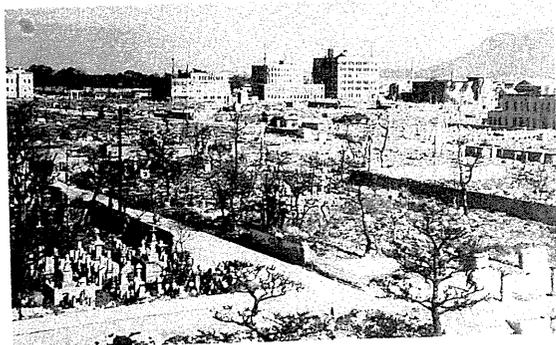
市内線被災 昭和20年7月4日未明B29爆撃機延102機による高松空襲によって、市街地の大部分が焼失した。特に市内線築港―公園前―瓦町間は被害が大きく、電車は運行不能となった。幸い、栗林公園駅ともと桜町の旧本社屋は難を免れた。

昭和20年8月15日、苦難に充ちた戦争は終わり、物価高騰によるインフレの波をかぶることになったが、復興の槌音が次第に高まるにつれ、田舎に疎開していた市民の利用もあり、輸送需要は急激に増加して来た。

これに対応して、会社では車輛の改造、整備を進め、国鉄や私鉄同業者から中古車輛を譲り受けると共に駅舎、軌道施設の改修工事を進めた。

築港線延長 昭和20年11月8日、先の高松空襲で廃止された市内線の代りに、瓦町―築港間1.7kmの鉄道建設を行うこととなり免許を受けた。

工事は用地買収の困難もあったが、市民の協力と関係者の努力で23年2月18日に片原町までの単線運転、同年12月26日には仮設築港駅までの営業を開始した。ついで仮設築港駅―栗林公園間の双信閉塞器、出発信号機を設置し、翌年5月11日から、この区間の複線運転を開始した。



戦災で焼失した高松市街

志度線八栗―志度間の復活と輸送力増強 昭和20年1月26日以来休止していたこの区間5.8kmも、営業を復活することになり、同23年11月30日工事許可を得て着工し、翌年9月末完工、10月9日から営業を開始した。また長尾線も高田変電所の容量を増加して、大型車輛を投入したので、輸送力は全線にわたって、一段と増強された。

バス事業の復活 戦後バス事業の受けた痛手は大きく、免許路線442kmのうち実際に運行出来るのは、僅かに20%程度に過ぎなかった。車輛は老齢化し、故障続出のため車輛の更新と、代用燃料化に全力を注いだ結果、昭和21年度上期には全車輛の代燃化が完了した。

当時、休止路線のうち、営業再開について強い要請を受けた粉所、神山などのうち、大川地区の16線は委託として再開し、その他の路線は全て直営とした。経営は低運賃の為苦しく、収支の均衡を保つことは出来なかった。

昭和24年8月23日事業区域香川県内一円の貸切バス営業免許をうけ、車輛3輛で営業を開始した。同年後半になって燃料事情も好転したので、代燃車をガソリン車に切り替え、さらに昭和31年からは効率のよいディーゼルエンジンを搭載したバスに切り替えた。



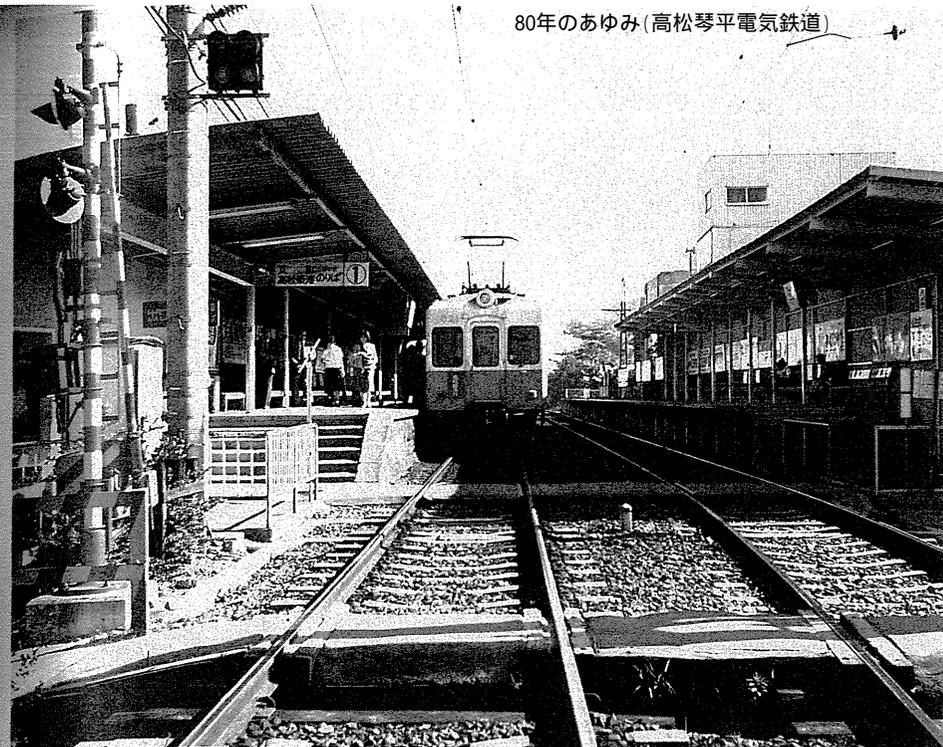
昭和26年頃のボンネット型バス ボディーの中央にコトデンの旧マークが見える

電車 —— (輸送力増強と近代化へ)

琴平線

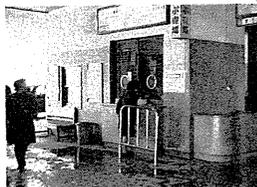
高松築港駅

所在地 高松市寿町1丁目5番20号

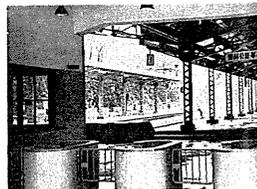


高松築港駅は琴平と志度、長尾へ向う乗客のための始発駅である。電車が発車するホームに、高松城(玉藻城)の石垣が迫り、ホームの手すりから、内濠の水面を望むことが出来る観光高松の玄関駅である。

旧駅改札口付近



旧駅集札口付近



この駅は戦後生まれである。完成は昭和30年9月だが、昭和23年12月片原町-築港間の路線開通により、しばらくは仮駅で営業した。その後軌道を約200m延長して新駅が完成した。(註 昭和46. 2. 1. 高松グランドホテル新築の際、発着線の変更と駅舎を移転。)

片原町駅

所在地 高松市鶴屋町9番地1



上りホーム(昭和45年頃)



下りホーム(昭和45年頃)

昭和23年2月瓦町駅から路線を延長してきた戦後派の駅である。昔片方が原っぱであったということから、つけられたと言う地名、片原町そのままの駅名であるが、正確な位置は鶴屋町にある。

構内は複線で、朝夕は商店街や、ビジネス街に勤務する乗降客で混雑する。

隣接して琴電商事のスーパーマーケット片原町店があり、買物客で賑わっている。

(註 昭和49年度ホーム延長、同53年度上2.5m下7.5m延長、昭和57年度上屋改築)



瓦町駅全景

かわら まち
瓦 町 駅

所在地 高松市常盤町1丁目3番地

大正15年12月開業の栗林公園-滝宮間から遅れること約4ヵ月、昭和2年4月琴平電鉄の琴電高松駅として仮駅(主線5.4.11.20号)で開業したのが始まりである。

開業初期には四国水力(後の讃岐電鉄)の瓦町停留所が、駅舎の西北端、ホーム延長先にあった。これも戦災で焼失し、市内線は

廃線になり軌道を撤去した。

本駅舎の建築は、仮駅舎建築からさらに2年7ヵ月遅れて始まり、昭和5年4月3日から営業を始めた。香川新報社は4月2日の記事で、その間の状況を“いよいよ工成り、あすから開業”の見出しで大要次の様に報じている。

琴平電鉄の高松琴平全線が昭和2年4月に開通して以来、取敢ず仮駅にて開業し、傍ら本駅工事を進めていたが、本春漸く竣工したので、明3日桜花の絶頂を機として、開場することになった。

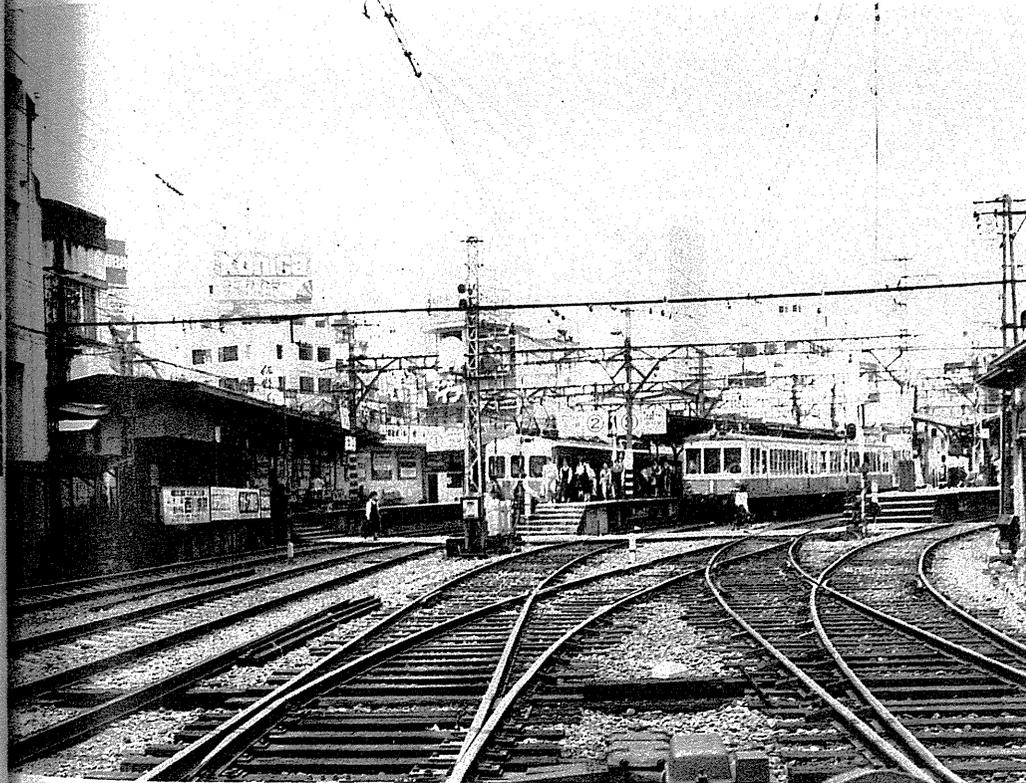
完成した本駅は、市内南新町角から新駅に達する新設道路正面に、モダン式鉄筋コンクリート造の偉観を見せているが…中略…42坪余の地下室を設けてある。地下室は食堂を経営する目論見であるが、地下食堂は目下当市唯一のものである。

本建築は6丈5尺の高燈籠を設置したので、一躍附近抜群の高さを以て、その目標となり、夜間は投光器で四辺に光輝を放射し一美観を添え……。 (以下略)と大変な賞め方であった。

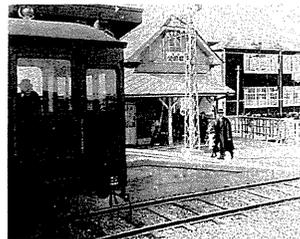
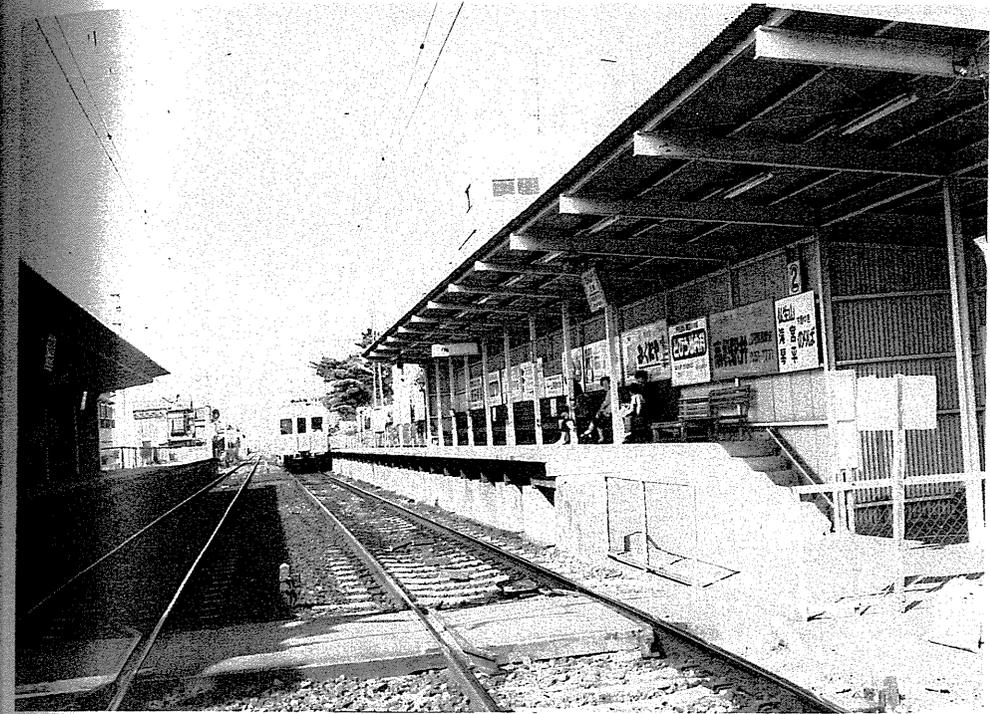
その駅舎も戦災で一部分焼失した。だが築港線の延長、志度線、長尾線の乗り入れなどにより、ターミナル駅としての貫禄充分で、駅前常盤街や周辺商店街の繁栄を見ながら、60年余りの風霜に耐えている。

駅舎には琴電商事の瓦町店も同居している。昭和48年瓦町駅周辺再開発構想が浮上して現在検討が加えられて居り、新瓦町駅ビル誕生も近いことと思われる。

(註 昭29. 1. 1駅名を瓦町駅と改称、昭和46年度琴平線上下ホーム3m、志度線1.53m延長、昭和53年度志度線4.15m、琴平線下り8.5m各々延長)



駅長脱ぐ一日の手袋帽の中 斗志男



創業当時の栗林公園駅 後方に見えるのは旧本社

栗林公園駅

所在地 高松市栗林町3丁目830番地

駅名は栗林公園―滝宮間が開通した草創時のままである。大西虎之介初代社長自らが、直接京阪神に向いて設計の想を練ったといわれる由緒ある駅舎も、昭和42年9月琴電商事栗林店建築の際、惜しくも取り壊されて、昔の面影は残っていない。

(注 昭和46年度、57年度上屋増改築、昭和60年度ホーム嵩上)

三條駅

所在地 高松市上之町2丁目1244番地3

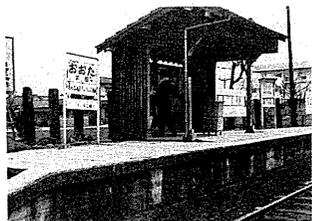


昭和45年頃

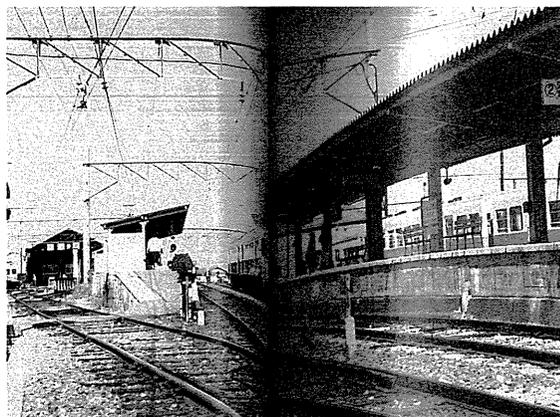
昭和34年3月1日に設置した琴平線の中で一番新しい駅である。駅周辺での住宅建設で、通勤通学の乗降客が増加したので、たびたび駅舎とホームの増改築を行い、郊外駅としての体裁をほぼ整えた。

駅名は、大化の改新後に定められた条理制の三条の地名から付けたものである。

(注 昭和45年度、46年度ホーム拡巾、昭和58年度同上下線5m延長、昭和57年度上屋増改築)



昭和45年頃



仏生山駅下りホーム

80年のあゆみ(高松平電気鉄道)



創業時代の駅舎 下りホーム



おお 太 田 駅

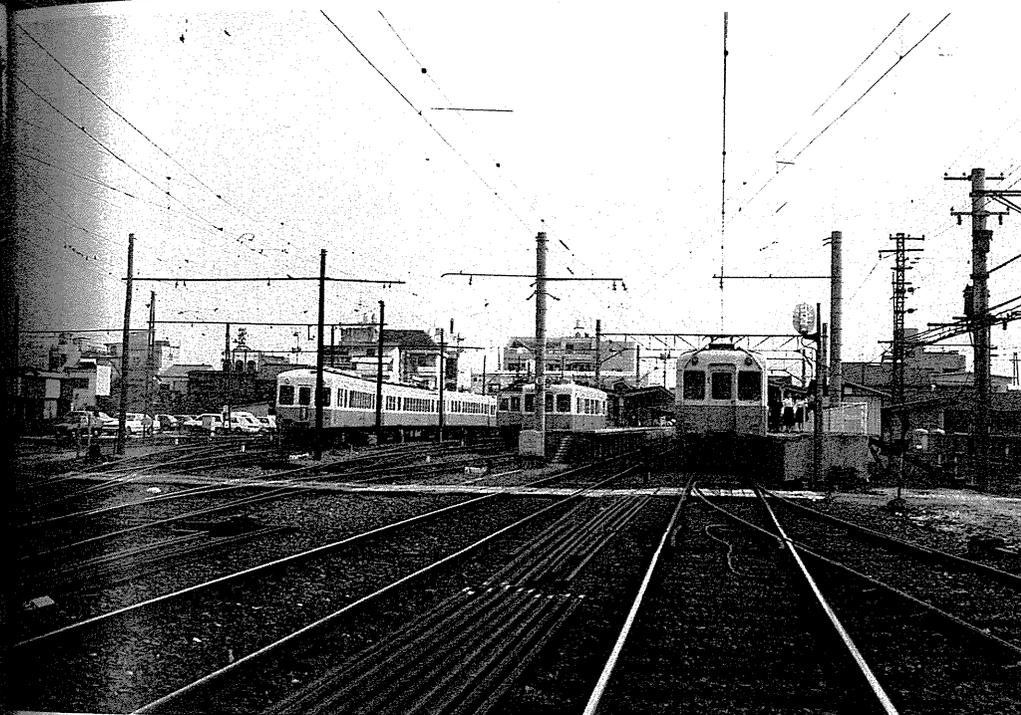
所在地 高松市太田上町705番地 6

駅のある太田上町は新興住宅地域で、駅前に商店が並び大変賑やかである。かつて太田ダイコンの特産地として、一面田園であった

昔の名残は全く消えている。

昭和26年に四国電力が駅前に社宅団地を造ってから、新興住宅地帯として急速に発展した。近くには金融機関や量販店なども出店している。

(注 昭和44年度駅舎、57年度上屋改築、昭和59年度ホーム嵩上)



ぶっしょうざん 仏生山駅

所在地 高松市仏生山町302番地 1

法然寺、ちきり神社の門前町として古くから栄えた仏生山町に、大正15年12月開業した。大正時代に建築された旧駅舎は斬新な感覚に溢れた郊外型の立派なものであった。4年後に塩江温泉鉄道がこの駅と塩江温泉を結んで

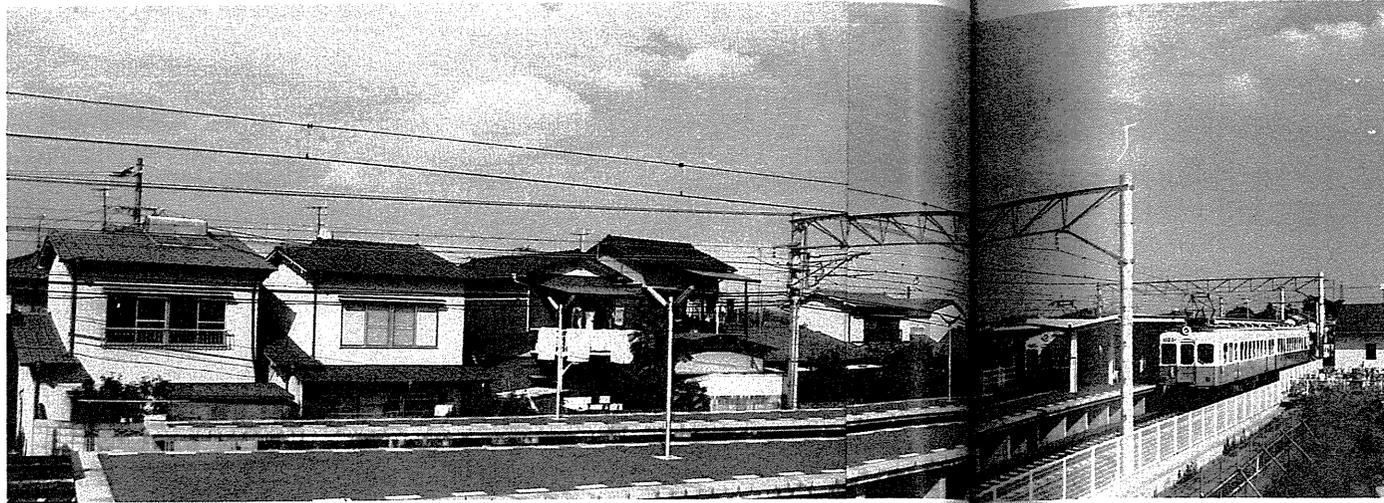
開通し、昭和16年5月運転を中止するまでの間、乗り換え、始発駅として活躍した。

この歴史がある駅舎も、昭和44年12月琴電商事仏生山店建築の際取り壊されて、マーケットの建物と同居している。

構内には軌道を挟んで東西に各々車輛修理工場があり、東側修理工場は51年さらに1棟増築され、55年には無人変電所も設置された。

(注 昭和51年度、57年度ホーム上屋改築、昭和60年度同嵩上)

事故も故障もなかり一ト日初螢 敏弘



えんざ 駅

所在地 高松市円座町1469番地2

開業当時は離合駅で職員も常駐していた。昭和4年ダイヤ改正の際、畑田、栗熊駅と共に離合を廃止、昭和41年からは無人駅となった。しかし昔の下りホームの跡は今も残っており、その短いホーム跡が開業当時に偲ばせる。

円座の地名は平安時代スゲを円形に平たく編んだものを円座と呼んだことから、松平藩の時代には盛んに生産されていたので、地名となったといわれている。

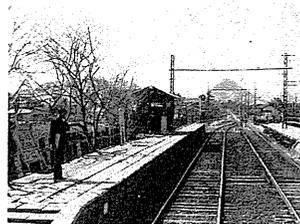
(註 昭和46年度、57年度ホーム5m延長、昭和58年度上屋改築)

いちのみや 駅

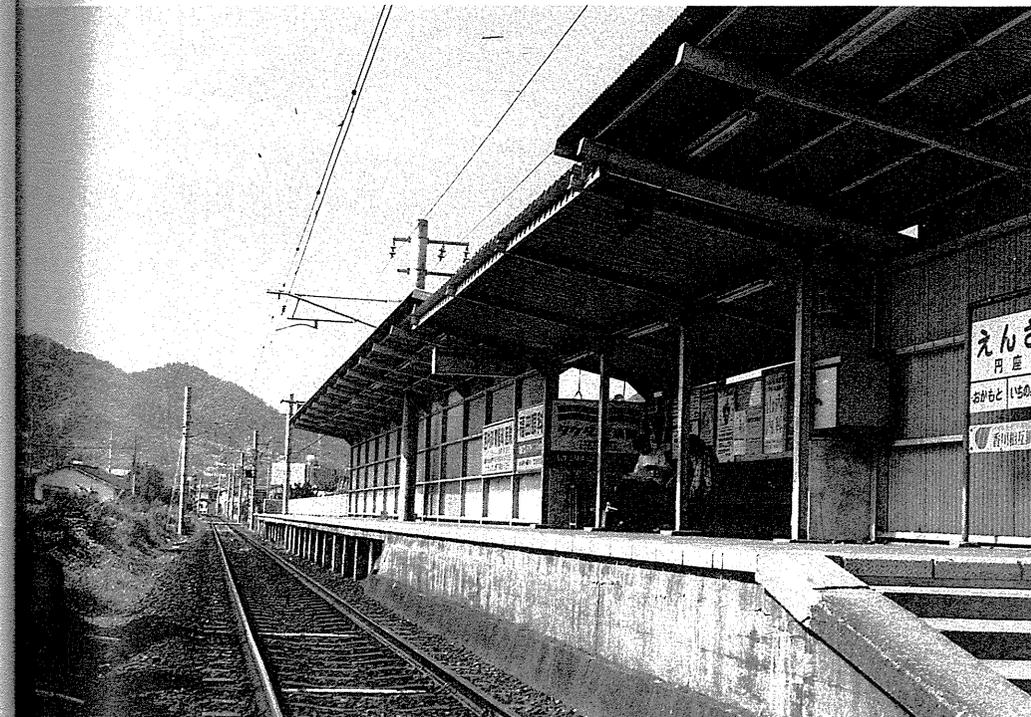
所在地 高松市一宮町504番地5

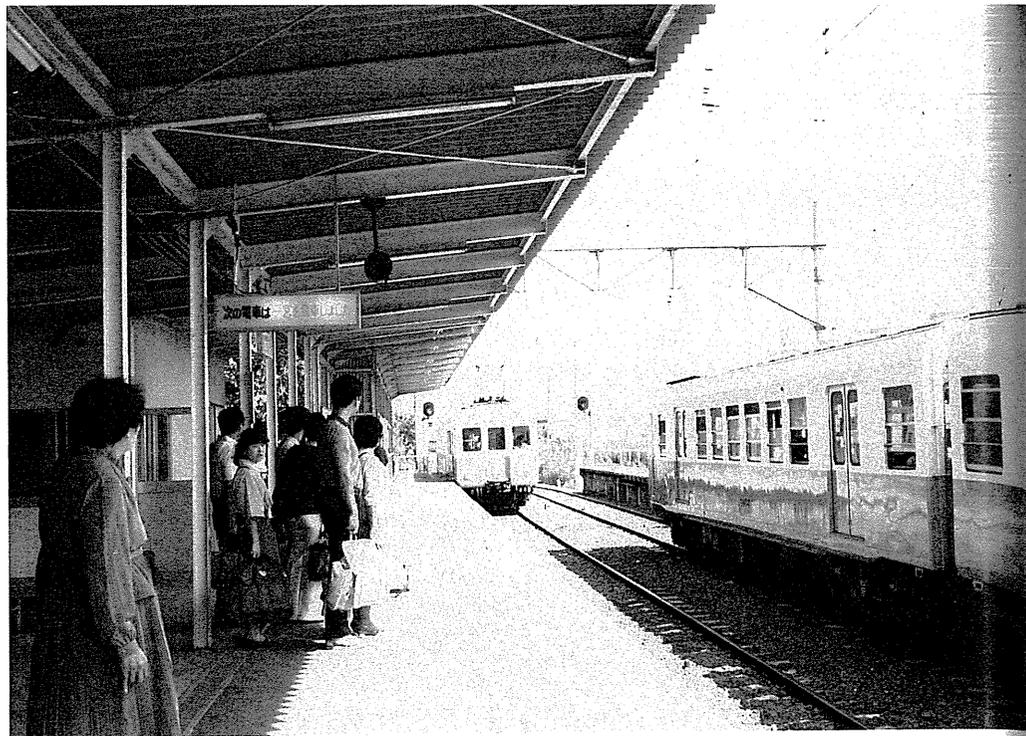
昭和62年4月香川中央高校開校の際同校通学生と、従来から同駅を利用している高松南高校通学生との混雑緩和のため、旧一宮駅を300m琴平寄りに移設新築して拡充整備のうえ、同月7日から乗降を開始した。琴平線では琴平駅と共に、明るい近代感覚の溢れる駅である。

またこの駅に付随する会社用地で、宅地造成が行われ、琴電一宮ニュータウンと命名された。また琴電商事も出店を予定して居り、新しい郊外型コミュニティー駅として、面目を一新することになっている。



移設前の一宮駅(昭和45年頃)





おかもと
岡本 駅

所在地 高松市岡本町1554番地 3

享保元年（1716年）に築造されたと伝えられる周囲8.6kmの「奈良須池」をすぐ前にした、風景の美しい駅である。対岸の小高い山上樹林の間から、当社が委託を受け経営している市営ユースホステルの建物が見える。

昭和5年頃までは駅の南に旧琴平電鉄の岡本遊園地があった。その劇場では淡谷のり子も出演したことがある。池畔にはポプラの並木があり、貸ボートも楽しめた。秋には菊人



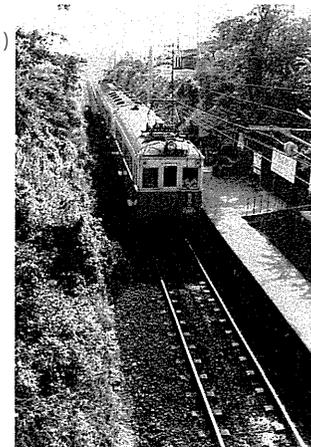
昭和45年頃

形展が開かれたりした。その後戦争も終り、昭和25年から、秋には乾上がった池を利用して全国花火大会も開かれたが、惜しくも5回で中止された。

昭和43年駅附近の溜池を埋立てた跡地にワンマンバス回転場を作り、バス乗降客の接続の便を図った。

（註 昭和49年度ホーム延長、同56年度上下線4m延長、昭和52年度駅舎新築、57年度上屋改修）

80年のあゆみ(高松琴平電気鉄道)



「カ行」を解くや紅葉の切り通し 董和

かざしが おか
挿頭丘 駅

所在地 綾歌郡綾南町畑田562番地 3

大正15年琴平電鉄開業の際、大西虎之介初代社長が南郊田園都市建設を目ざして設置した駅で、掘り割の中に駅舎とホームがある。階段を上って駅を出るが、上には陸橋かざし橋が架っている。

附近一帯は静かな住宅地である。駅の出口にある古びた長い階段が、僅かに創業当時の雰囲気を漂わせている。

（註 昭和52年度ホーム10m延長、63年度27m延長、昭和54年度上屋増収築62年度嵩上）



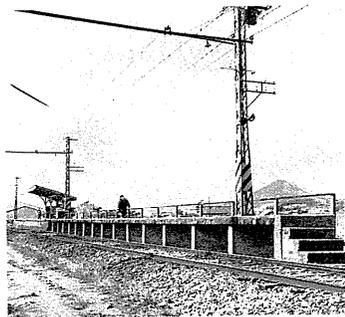
はた だ 駅
畑 田 駅

所在地 綾歌郡綾南町畑田1059番地 3

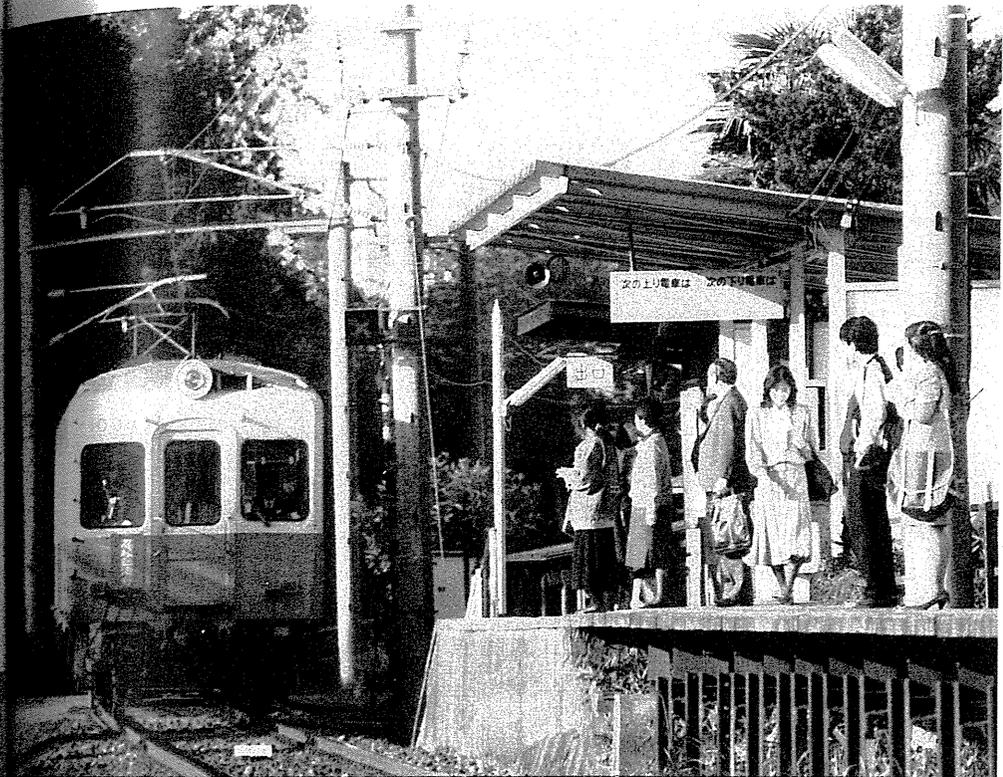
琴平線のほぼ中間駅にあたり、開業時には離合駅であった。昭和4年ダイヤ改正で、旧座駅と同様に離合が廃止されて、片側ホームのみを使用して来た。

創業時には、この駅に隣接して畑田変電所があり、四国電力端岡変電所から受電し、4人の従業員が交代で勤務していた。外壁は戦時中米軍機の爆撃を避けるため、迷彩をほどこしていた。それが今も残っている。昭和55年12月この変電所は廃止されて、今あるのは建物だけである。

(注 昭和50年度上屋改築、52年度ホーム15m延長、62年度当上)



昭和45年頃



たえ 駅
陶 駅

所在地 綾歌郡綾南町陶5692番地 4

平安時代周辺一帯はかわら須恵器類が盛んに作られたところから、地名が生れ、駅名となった。北方の十瓶(とかめ)山麓一帯が盛んであったらしく、180もの窯跡が発掘されている。

この駅は山田方面から通勤、通学する人の

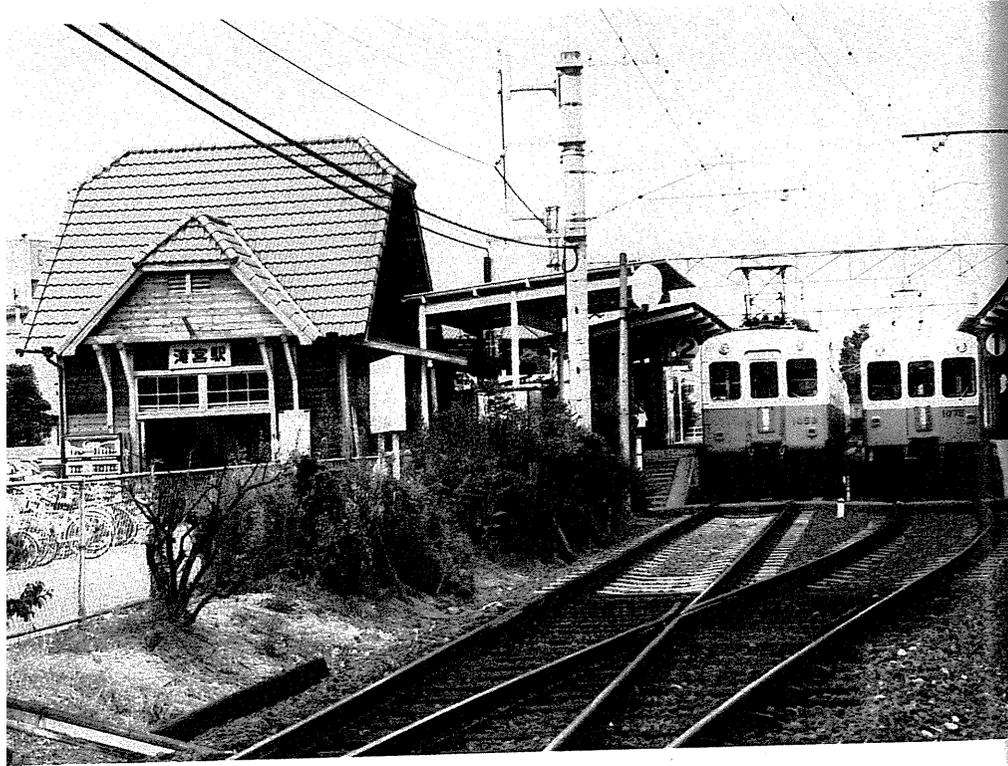
利用も多く、乗降客は近年増加している。

たきの みや 宮 駅

所在地 綾歌郡綾南町滝宮515番地 3



昭和45年頃



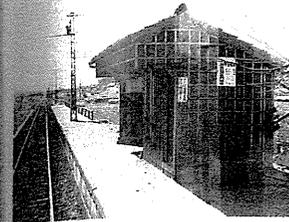
大正15年琴平電鉄が開業した当初の終着駅である。翌2年3月には琴平まで開通したから、終着駅としての期間は短い。モダンな三角屋根の駅舎は歴史を刻んだまま、その面影を残しており、風格がある。ここにも創業者の熱い息吹きが感じられる。

周辺には綾川の溪流と滝宮天満宮がある。

溪流は昭和42年完成した府中ダムに一部を残し水没した。

昭和55年12月、構内に無人の滝宮変電所が新設された。

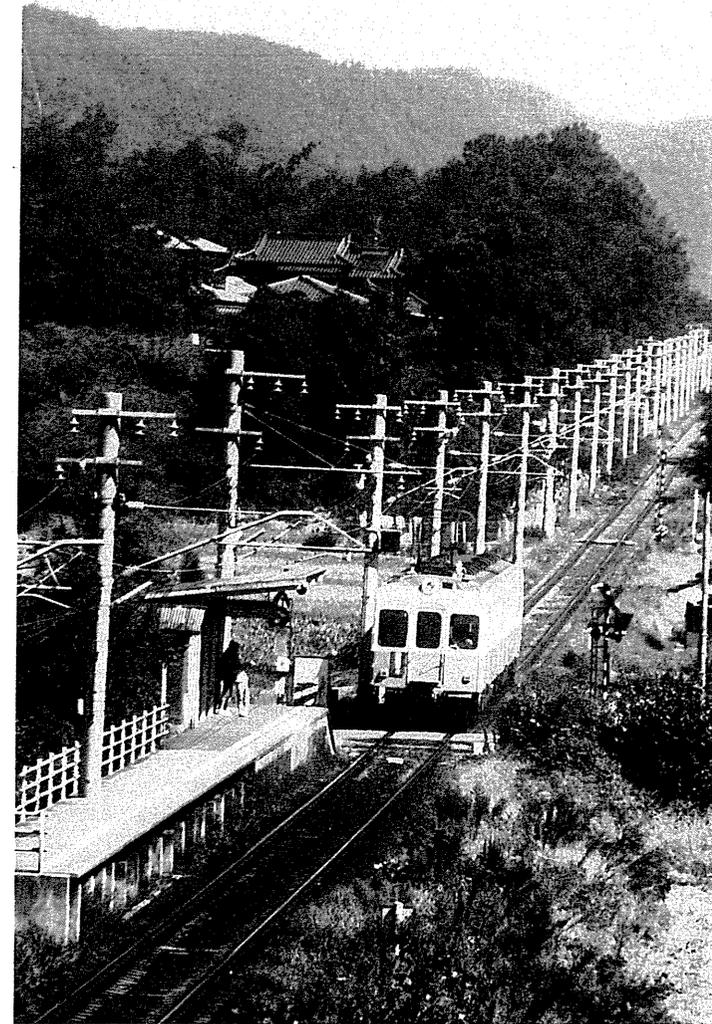
(註 昭和53年度ホーム上下線15m延長、同年上屋増設、昭和62年度嵩上及上下線増築)



昭和45年頃

は ゆか 羽 床 駅

所在地 綾歌郡綾南町羽床1115番地 3

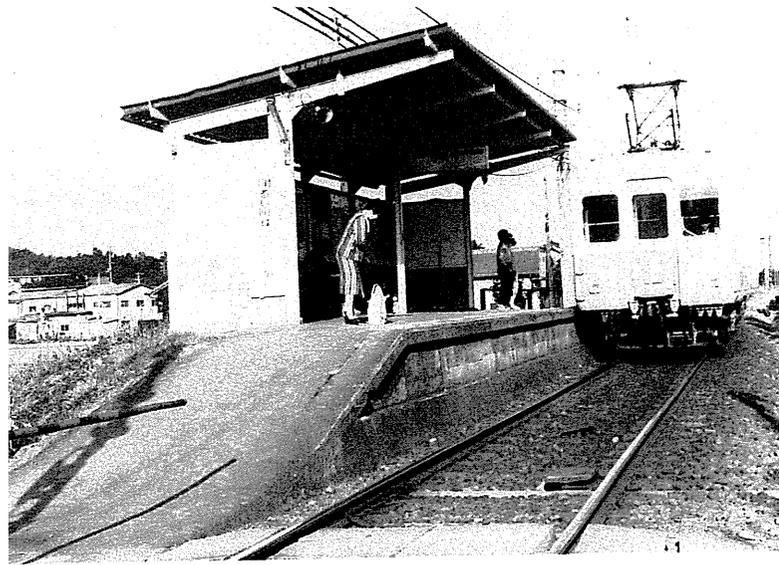


稲田に囲まれた駅である。全線で標高が一番高い。附近にある高見山が羽を休めているタカのように見えるところから「はゆか」と呼ばれるようになった。

駅の南にある地区の共同墓地に刀研師羽床

辰蔵の墓がある。大正14年東京歌舞伎座で、2世市川猿之助により「研辰の討たれ」として、辰蔵にまつわる物語を演劇化上演して以来、猿之助のあたり芸となった。

(註 昭和54年度上屋改築、56年度ホーム10m延長)



くま 栗 熊 駅

所在地 綾歌郡綾歌町480番地2

琴平電鉄開業時には丹座駅と同じく、離合駅であった。現在では廃止されている。

附近一帯には多くの古墳が点在し、土器や石器の出土もある。駅周辺では電照菊栽培用のビニールハウスが立ち並ぶ、純農村地帯である。

(註 昭和50年度上屋改築)

は ぎ ま 間 駅

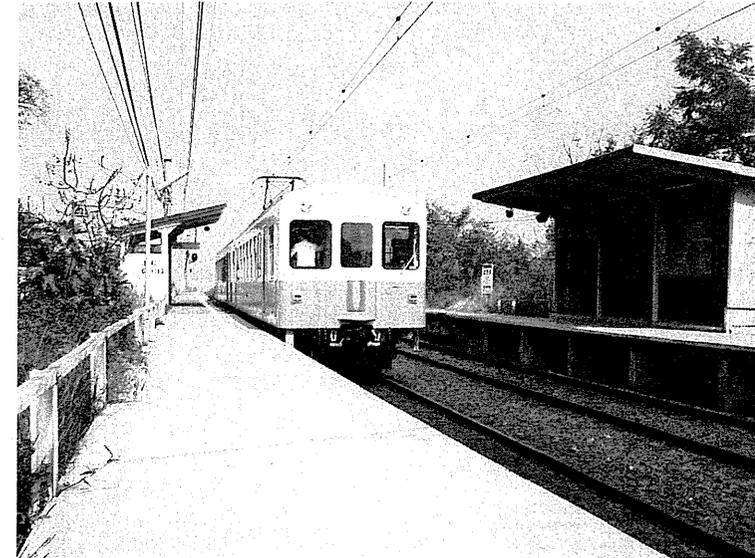
所在地 仲多度郡満濃町東高篠2386番地

ホームの東端が満濃町と綾歌町の境界である。南に「はざま池」、県道を挟んで北にも大小の溜池があり、駅の西には金刀比羅宮のある象頭山を望んで残念坂が見える。

(註 昭和55年度上屋改築, 58年度ホーム上下線10m延長, 62年度嵩上)



昭和45年頃



秋 嶺 や 車 掌 の 笛 の よ く 透 り 保

お か だ 岡 田 駅

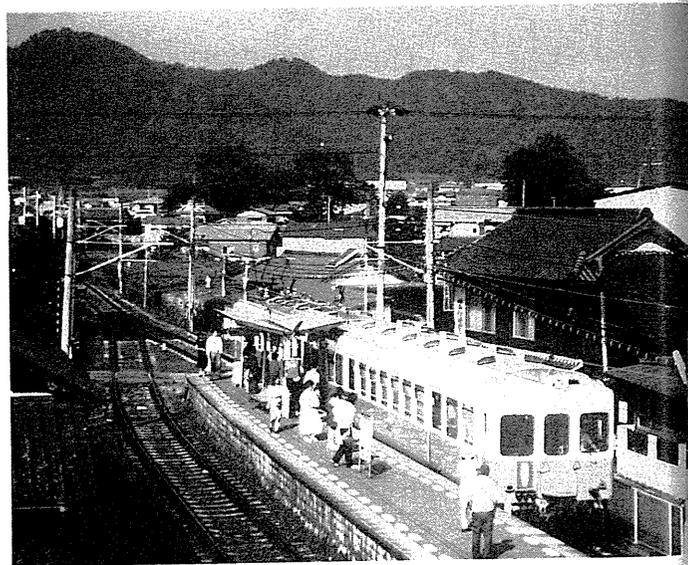
所在地 綾歌郡綾歌町岡田587番地5

昭和33年3月急行運転開始で離合駅になった。

駅の南にある天神山山頂には郷土が生んだ政治家三土忠造の銅像がある。昔は松茸の産地として知られていた。

駅の手前高松寄りに、線路を跨いで高架橋がある。県道坂出一貞光線である。中讃大規模農道、さぬき新道の起点になり、国道32号線が交差する。

(註 昭和60年度ホーム10m延長)



な い 榎 井 駅

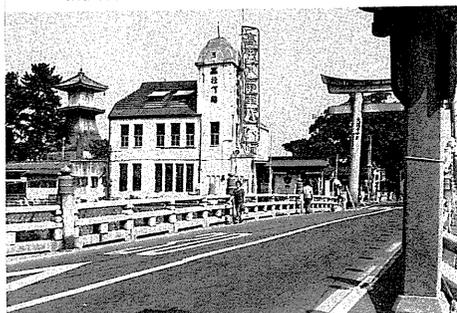
所在地 仲多度郡琴平町榎井400番地3

最近周辺一帯に住宅が増加したのにつれて、乗降客も多くなった。利用客の大部分は上り高松方面である。昔こんびら詣りをした人々が身を清めたと云われる土器川が近くを流れている。

(註 昭和53年度8m, 56年度10mホーム延長, 62年度嵩上)



旧駅舎改札口附近



旧駅舎全景



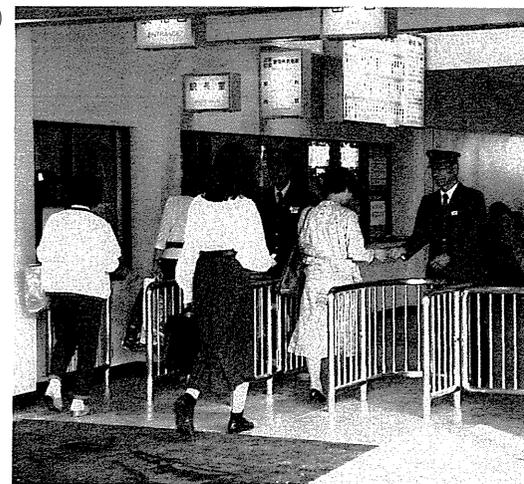
新琴平駅



撤去前の駅舎と写生大会



一方、旧駅舎の撤去に際しては、昭和2年開業時から今まで風雪に耐えて来た、創業



新駅改札口付近



竣工式で挨拶する大西社長



竣工式

者の創意溢れる北欧風の建物を懐かしむ声も強く、地元琴平町の絵画愛好家達による「琴電琴平駅を描く会」が催された。

作品は同町内画廊や高松グランドホテルロビーで、キャンパスにその面影を残す駅舎展として展示され好評であった。

こと でん こと ひら 琴電琴平駅

所在地 仲多度郡琴平町360番地22

琴平線の終着駅で、瀬戸大橋開通に合わせ、昭和63年5月に建て替えた当社では一番新しい駅である。

駅舎は門前町琴平町の玄関口にふさわしいレトロ調で、鉄骨コンクリート2階建て延344㎡。かわら葺で側面に擬石を配して懐古調を出している。1階は待合室と駅長室、売店で、2階は従業員の宿泊所となっている。

昭和63年1月着工のうえ4ヵ月で竣工した。竣工式は5月26日、大西社長外関係者多数出席のうえ、神式により厳かに執り行われ、同日営業を開始して、瀬戸大橋開通後観光客が増加した琴平町の活性化に一役買っている。

なが
尾 線



はな
園 駅

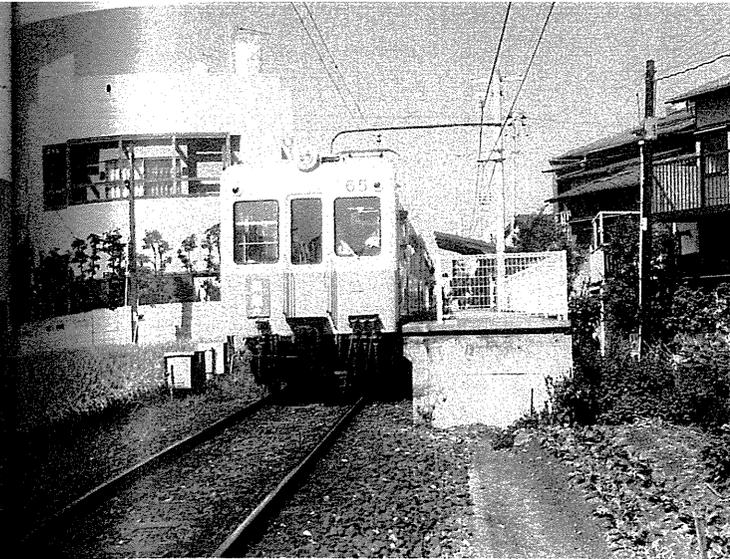
所在地 高松市花園町1丁目1331番地10

明治45年4月高松電気軌道開業時には御坊川駅の名称で、現在地より約95m長尾寄りの御坊川橋梁手前に造られていた。

昭和20年4月の長尾線開軌工事や、同年12月出晴駅廃止、瓦町乗り入れ、同26年12月、瓦町-花園間南廻り新線つけ替え工事など一

連の輸送改善計画により、同29年8月1日林道駅と共に誕生、現在地で営業を開始した。

(註 昭和52年度上屋増築、同ホーム2m延長)



はやし
みち 駅

所在地 高松市木太町1609番地2

昭和29年8月1日当時の木太西口駅(所在地高松市木太町假尾、出晴より実測換算杆程2.395km^警)を廃止した際、約300m長尾側の地点で駅を新設した。花園駅と同様昭和に入ってから営業を開始した駅である。

(註 昭和45年度上屋増設51年度ホーム5m延長)

き
たひがしぐち
木太東口駅

所在地 高松市木太町4007番地7

明治45年4月高松電気軌道開通時からの古い駅である。昭和21年6月23日より、それまで単線のこの駅が離合駅となった。

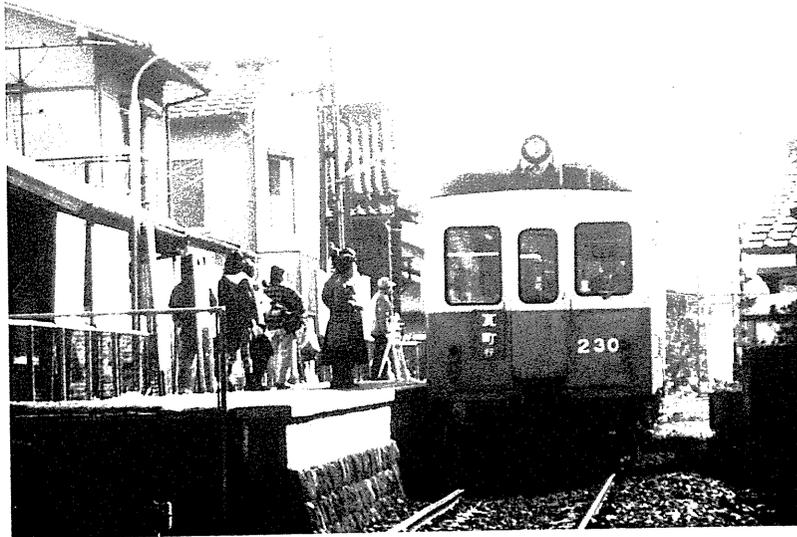
最近郊外居住人口の増加で利用客も増えた。



昭和45年頃

ホームより長き電車や柿明り 武生

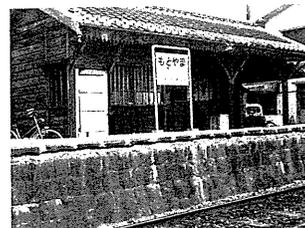




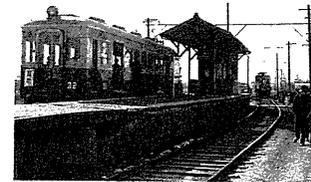
もと やま 駅
元 山 駅

所在地 高松市元山町974番地 2

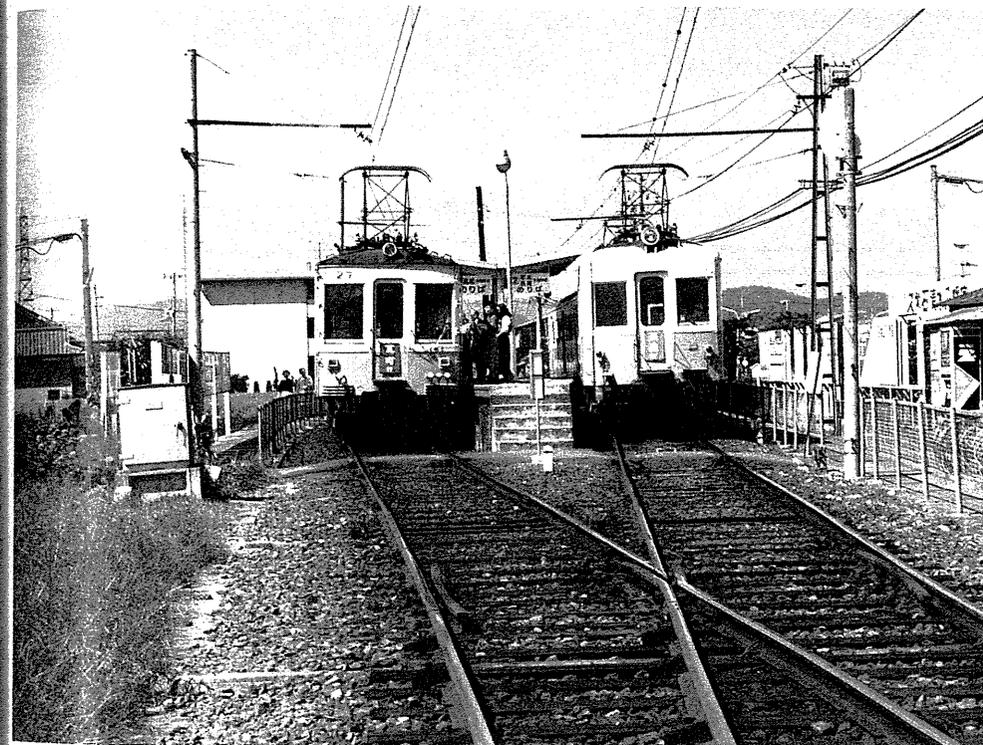
高松電気軌道開業時代からの長尾街道沿いにある古い駅である。附近には民家が多く、利用する乗客も多い。(註 昭和51年度ホーム5 m延長)



昭和45年頃



昭和45年頃



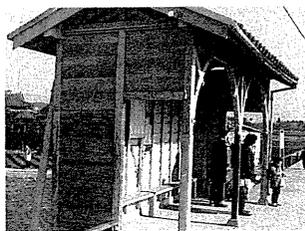
みず た 駅
水 田 駅

所在地 高松市東山崎町58番地 2

開業時には、当駅より500 m 瓦町寄りの地点に川島口駅があった。この駅は急なこう配の中にホームがあったため、保安上の点で昭和44年 5月廃止された。また高松電気軌道の時代には、その川島口駅と水田駅との中間、

山崎踏切西側に山崎駅もあったが、これも今は廃止されている。

(註 昭和54年度ホーム15 m延長、同上屋増設)



昭和45年頃

にし まえ だ
西 前 田 駅

所在地 高松市前田東町381番地3

昭和38年6月、高松電気軌道開業当時の西前田駅を324m長尾側に移転し、同時にホームも延長して開業した、昭和になって建てられた駅である。(註 昭和56年度上屋増設)



たか た
高 田 駅

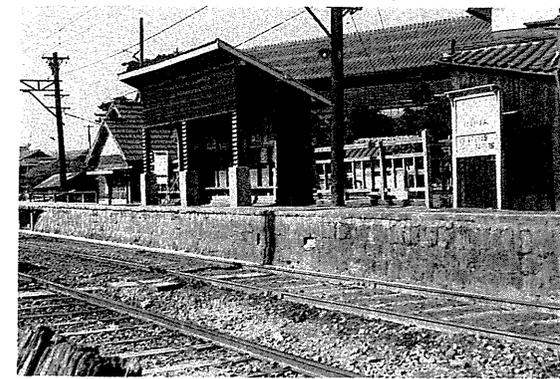
所在地 高松市亀田町381番地3

この駅は高松電気軌道時代に駅舎はなかったが、利用客が増えた為に昭和23年8月延面積41.25㎡、セメント瓦葺の駅舎を新築した。

昭和58年10月、香川医大付属病院開設により、高田駅、医大付属病院間に路線バスが運行されている。

駅構内に隣接して建てられていた、高田変電所の建物は、今は撤去されて、無人変電所と、ワンマンバスの回転場となっている。

(註 昭和51年度上りホーム6m延長、昭和62年度上下ホーム嵩上)



昭和45年頃 後方に旧変電所建物が見える

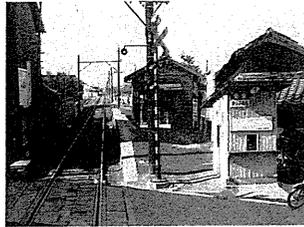
いけのべ 池戸 駅

所在地 木田郡三木町池戸3362番地 3

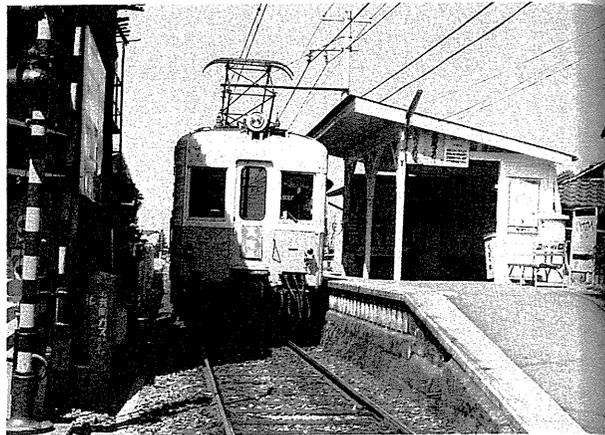
旧長尾街道沿いにある創業時代からの古い

駅である。商店街に近く、沿線の人々から親しまれて来た。

毎年8月に行われる池戸七夕祭は有名で、商店街は近郷近在からの人出で賑わっている。(註 昭和51年度ホーム5 m延長)



昭和45年頃



駅構内

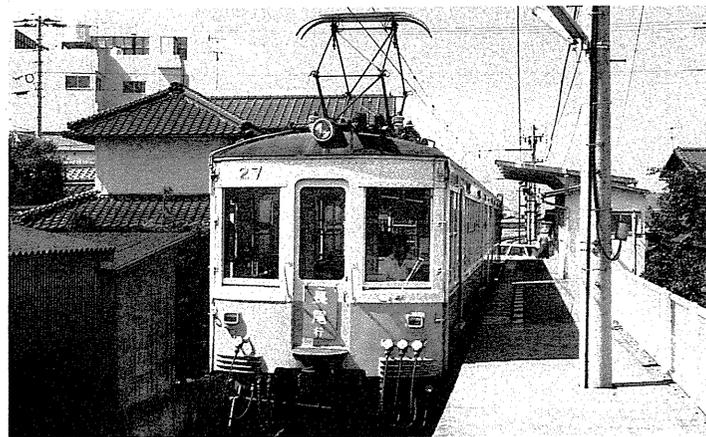
ひらぎ 平木 駅

所在地 木田郡三木町平木113番地 2

旧長尾街道平木商店街の、ほぼ中央に接して設置されたこの駅は、朝夕ラッシュ時に、瓦町まで15分毎の折り返し運転をしている。駅の利用者も多く、長尾線の中心的な駅の一つである。

昭和53年1月駅舎を新築した。

(註 昭和49年度ホーム延長、同52年度上り5 m延長、昭和56年度下り911 m延長、昭和62年度下り線上屋増築)



昭和45年頃



新築された駅舎



昭和45年頃



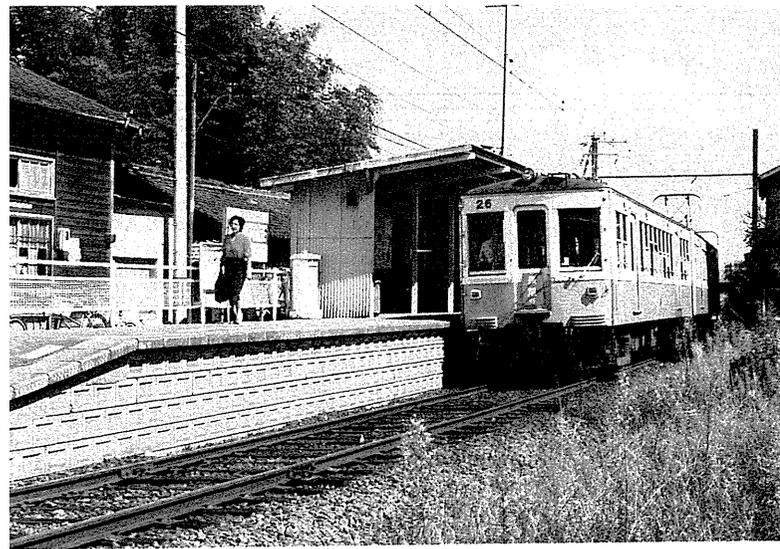
昭和45年頃

のうがくぶ 農学部前 駅

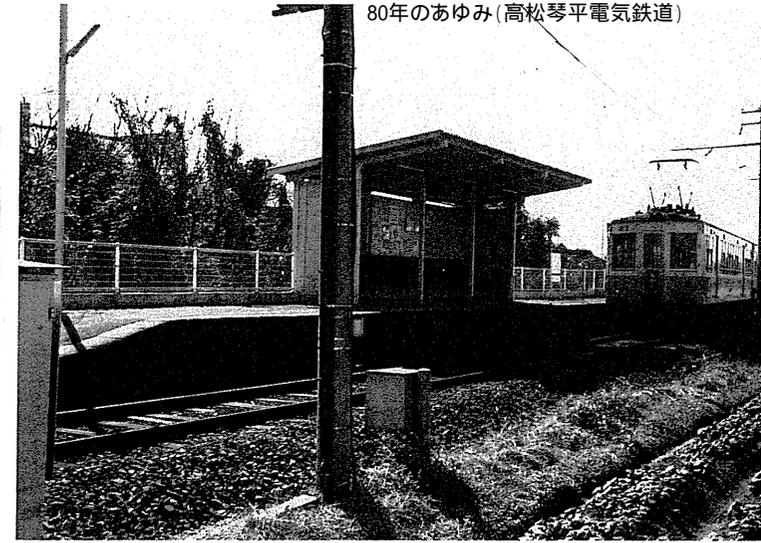
所在地 木田郡三木町池戸2852番地 6

開業時から今日まで、田中道、農大前、農学部前と三度にわたって駅名を改称した。そ

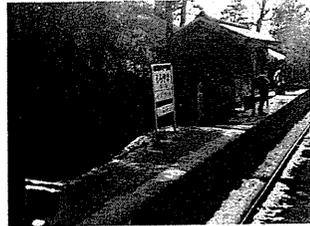
の名の通りこの駅を利用する学生は多い。また瓦町方面へ通学する小中高校生も近年増加している。(註 昭和51年度ホーム5 m延長、52年度上屋増築)



昭和45年頃



80年のあゆみ(高松琴平電気鉄道)



昭和45年頃

しらやま 山 駅

所在地 木田郡三木町白山967番地 5

高松電気軌道開業時から白山の麓に設置された古い駅である。昔は駅の近くに白山高等女学校(現木田高校白山分校)があり、また創業時代には隣の平木駅との間には、妙徳寺駅があったと記録されている。これも統合前の昭和16年には、既に廃止されており、定かな所在地は不明である。また鹿伏駅(旧井戸村鹿伏字幸正、出晴より実測換算料程11.968km[※])も、この駅より瓦町側約90mの地点にあったが今はない。

(註 昭和54年度ホーム55mに改築延長、同上最新設)



くもんみょう 公文明 駅

所在地 木田郡三木町井戸4125番地 2

井戸 駅

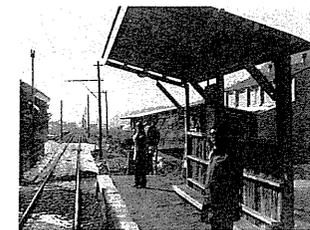
所在地 木田郡三木町井戸4217番地 2

高松電気軌道時代には白山駅と長尾駅(現公文明駅)の中間にあった。これも昭和16年の時点では廃止されている。

駅は昭和22年7月25日地元の要請で再び設置した。駅舎は資材不足の為、一時期高松電気軌道の古い車体を使って待合所代りにしたことがある。

白山駅から555m、公文明駅から540mと駅間距離が短いので、乗降人員は少なく、閑静な駅である。

(註 昭和52年度ホーム17m延長、昭和56年度上屋新設)



昭和45年頃

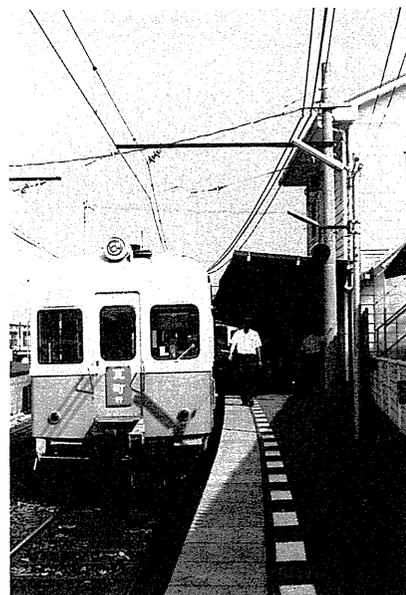
昭和27年7月25日新設、同年9月30日から営業を開始した。井戸駅から540m、長尾駅から690mの地点である。

高松電気軌道時代には現在地より約100m長尾寄り、鴨部川橋梁の西側に井戸川停留所(旧長尾西)があった。今も線路の南側に跡地がある。

(註 昭和51年度ホーム12m延長、昭和62年度上屋改築)



新駅舎と琴電マーケット長尾店



改築後の駅ホーム

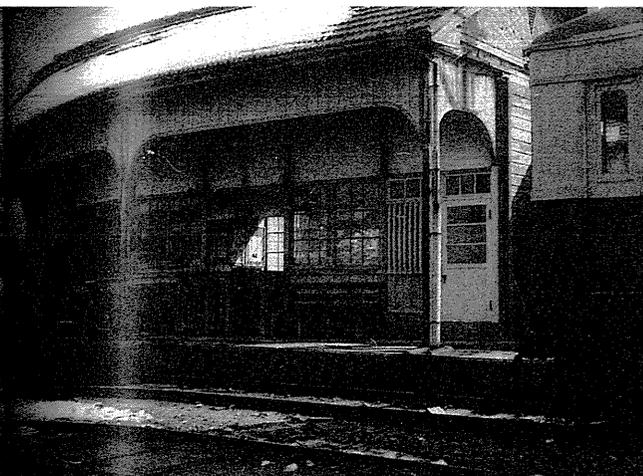
ながお 長尾 駅

所在地 大川郡長尾西559番地2

長尾線の終着駅である。駅舎は昭和61年4月新しく建て替えられ、長尾町の核にふさわしい、明るいなかにも、明治の風潮を生かした、美しいアイボリーホワイトの駅に生まれ変わった。

入口には身体障害者用のスロープもあり、駅前広場には、樺の木蔭と、駅に隣接してコトデンスーパー長尾店もあり、商店街の中心的役割を果たしている。

(注 昭和61年度ホーム26m延長)

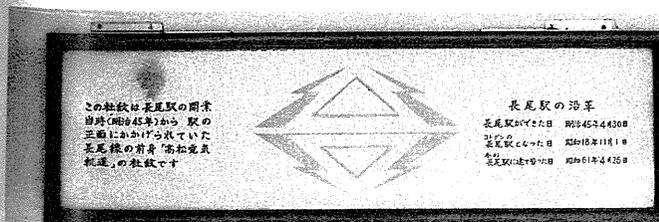


昭和45年頃のホーム



昭和47年頃の駅舎

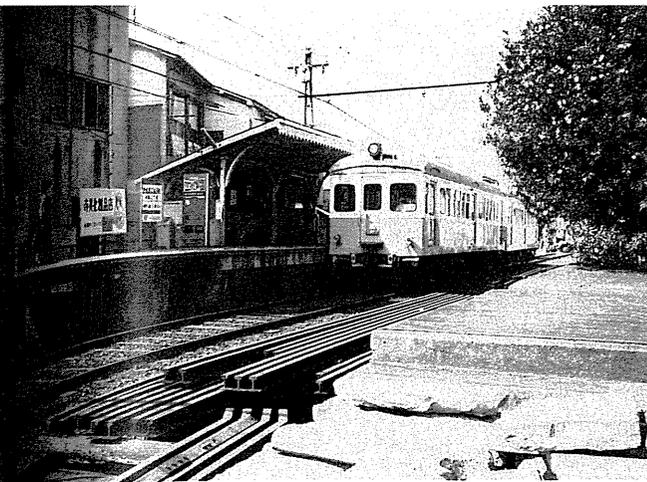
旧駅舎に使われていた高松電気軌道の社紋



志 度 線

いま ばし 橋 駅

所在地 高松市松島町1丁目3番地21



明治44年5月設立された東讃電気軌道が、翌年11月今橋-志度間に開業した時の始発駅で、その歴史は古い。その駅舎も戦災で焼失した。

戦後木造の駅舎が建てられ、昭和24年2月更に20㎡待合所が拡げられた。

隣接して、開業時から車庫、変電所などの諸施設があった。昭和52年11月近代的な検車庫に変わり、変電所は廃止されている。

(注 昭和51年度、61年度上屋増改築、昭和52年度上りホーム20㎡下り8㎡延長、56年度嵩上)

まつしまにちようめ 松島二丁目駅

所在地 高松市松福町2丁目15番地2

旧町名は松島町の名称をそのまま継いでいるが、所在地は松福町である。昭和46年1月23日松島四丁目から沖松島間約450mの線路移設工事(廃止線0.45829km、移設路線0.43054km)で約5m線路が短くなり、僅かではあるが北側に移設されている。

なお、同年8月20日に駅名を「松島四丁目」から「松島二丁目」に変更した。

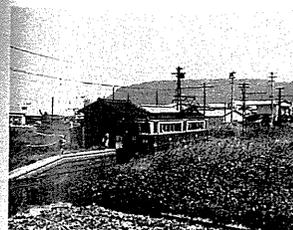


おきまつしま 沖松島駅

所在地 高松市福岡町4丁目19番地4

創業時からの古い駅で、会社の名前が東讃電気軌道から、四国水力、讃岐電鉄と変わっても、運賃区界は変わっていない。駅のすぐ南が御坊川、詰田川の合流点で、昭和10年頃その詰田川橋梁の袂には、塩田の広がりの中に、墓地と渡し舟があり淋しい所であった。

その後塩田も埋め立てられて、住宅、工場、倉庫などが混在する、町並の中に埋ってしまった。(注 昭和57年度ホーム6.6m延長)



昭和45年頃

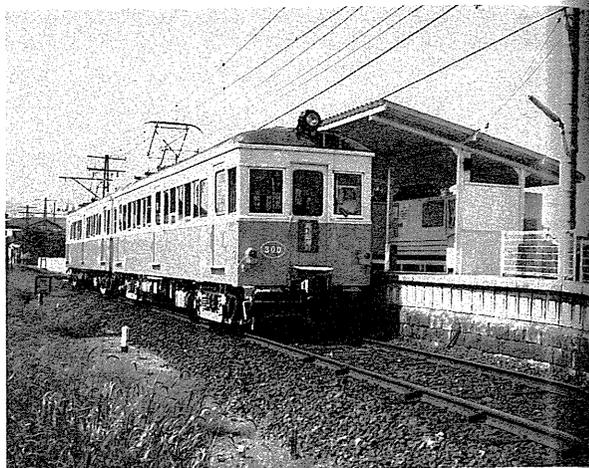
かすががわ 春日川駅

所在地 高松市木太町2708番地

屋島を望み見える駅のすぐ東に、春日川が新川と合流して流れる。昔は、この駅から沖松島寄り、線路の北側に詰田川と結んで東西に堀割があって、石垣の向こう沖合には、入

浜式塩田が広がっていた。堀割には北九州から回漕の機帆船が、石炭の積み下ろしをしている風景も見られた。

駅の南に並行して国道11号線が走り、北はマンションやゴルフ場がある。



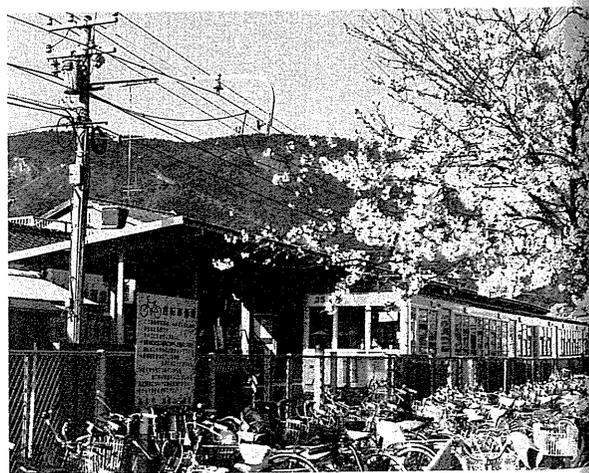
かたもと 瀧元駅

所在地 高松市屋島西町1723番地 5

昭和7年3月新川の西岸にあった西瀧元駅を現在地に移し、瀧元として新設したのに始まる。

昭和53年屋島西町塩田跡地に、県営団地が建設されて、附近一帯の宅地化が進むにつれ、病院、銀行、食料品店なども開店して、乗降客が増加した。

(註 昭和57年度ホーム2.5m延長、60年度上屋改築)



昭和45年頃

ことんやしま 琴電屋島駅

所在地 高松市屋島中町270番地 1

東讃電気軌道時代には現在地より約380m瓦町側に位置し、屋島駅と呼んでいた。大正14年国鉄屋島駅が出来たので、屋島登山口駅と改称した。歩いて登山するのに、一番近い場所に位置していたからである。

昭和4年屋島ケーブル開通の際、接続の利便を図るため、現在地に変更となり、従来の駅は屋島グランド前として使用した。

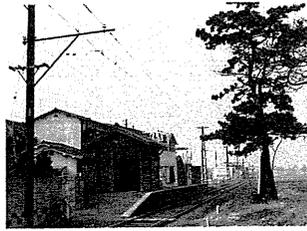


駅構内

それも西瀧元駅が廃止されて間もない昭和7年12月に廃止している。

昭和25年屋島ケーブル復活の際、ケーブルの方を屋島登山口駅とし、当社は琴電屋島駅と変更して今日に及んだ。

(註 昭和56年度上りホーム47m延長、58年度嵩上、61年度上屋増築)

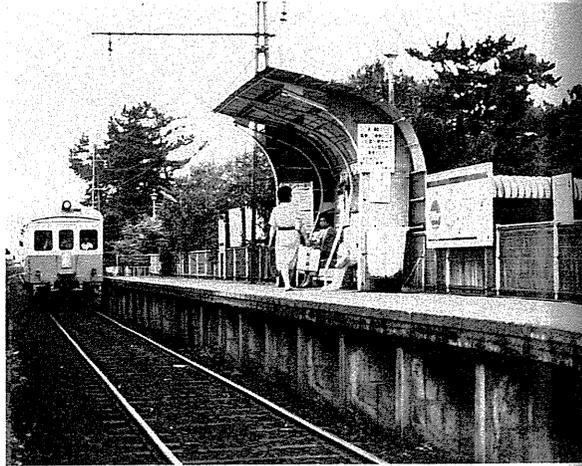


昭和45年頃

ふる たか まつ
古高松駅

所在地 高松市高松町15番地2

昭和45年頃



昭和44年10月2日、琴電屋島、八栗間で約920m路線を移設した。(廃止路線1.14935km、移設路線0.920km) その際古高松駅も北方へ約120mの位置に変更、同日実施して現在まで来ている。

昭和の初め、当時の屋島登山口駅と、古高松駅との中間に、東照宮前駅があった。この駅は屋島登山口駅が現在地に変更の時廃止した。(註 昭和57年度ホーム5m延長)

六万寺駅

所在地 木田郡牟礼町牟礼1097番地2

旧名牟礼駅である。明治44年の開業時には六万寺駅と称した、が路線を撤去した昭和20年から同24年までの間、営業を休止した。

昭和24年11月、セメント瓦葺9.9㎡の乗降客待合所、停留所を新設して、牟礼駅として発足した。昭和30年2月駅名を開業時の六万寺に戻した。

昭和58年4月、近くに県立高松北高が開校し、利用客が増加したので翌年4月から、ラッシュ時に高松築港、八栗間の一部電車を六万寺まで延長運転した。

(註 昭和52年度ホーム15m延長、56年度、59年度上屋増設)

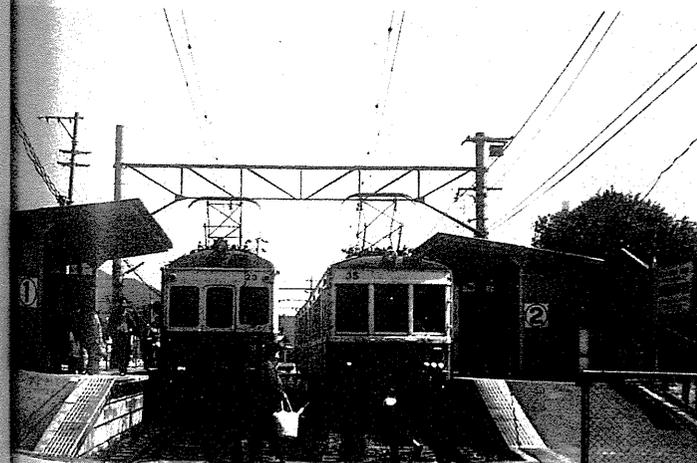


八栗駅

所在地 木田郡牟礼町牟礼2216番地2

創業時からの古い駅で、四国霊場85番札所八栗寺の麓にある。昭和20年1月26日から、同24年10月8日までの間、国の第2次鉄道軌道回収指令により、八栗-志度間5.9kmの線路を撤去して休止した。(10月9日営業開始) その間、一時志度線の終着駅となったこともある。

(註 昭和53年度駅舎改築、同上屋増築、昭和63年度上下ホーム96mにわたり嵩上)



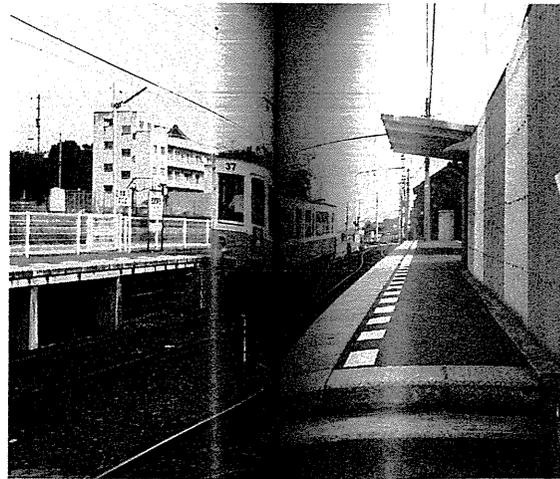
おお まち 大町 駅

所在地 木田郡牟礼町大町1532番地 5

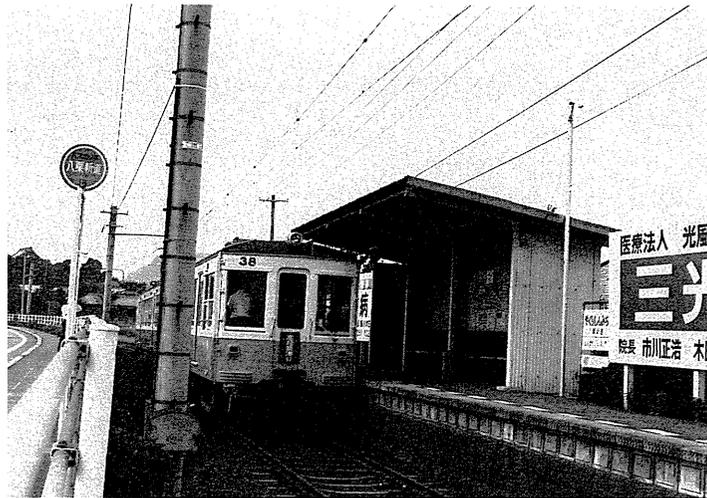
牟礼町のほぼ中間に位置し、駅の近くに町役場、学校などがある。

昭和52年と翌年の2回にわたって、駅ホーム上屋を改築し、旧駅舎は取り壊した。

(註 昭和53年度上下ホーム17m延長, 58年度嵩上)



昭和45年頃



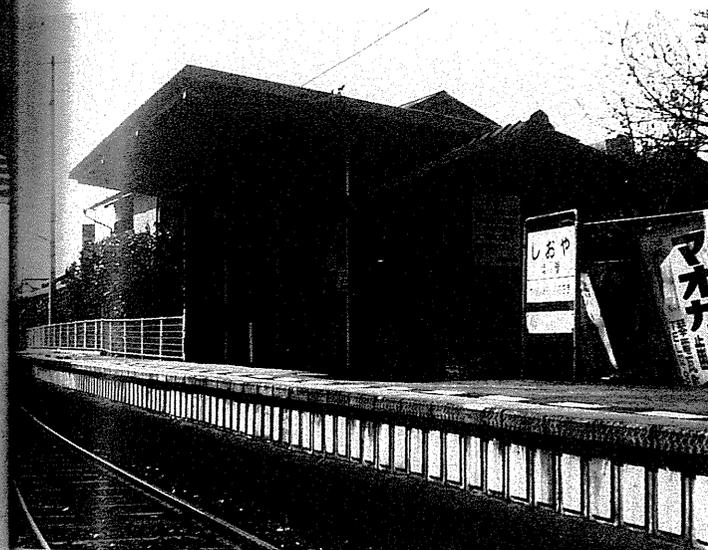
やくり しんみち 八栗新道 駅

所在地 木田郡牟礼町大町1387番地 7

昭和30年2月25日瓦町駅より9.468kmの地点に新設した志度線では、最も新しい駅である。八栗寺の裏参道にあたるので、この名称が付けられた。

高松バイパス道(現国道11号線)建設で、昭和35年2月14日大町-八栗新道間は新線に切り替わり、駅は僅かに北に移動した。

(註 昭和56年度上屋改築, ホーム25m延長)

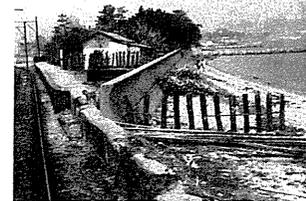


しお や 塩屋 駅

所在地 木田郡牟礼町大町1052番地 5

海岸まで300m、沿線で海水浴ができる唯一の駅である。昭和26年7月から同45年8月まで、夏の海水浴期間中は300m志度寄りに、塩屋海水浴場前駅を臨時に開設していた。

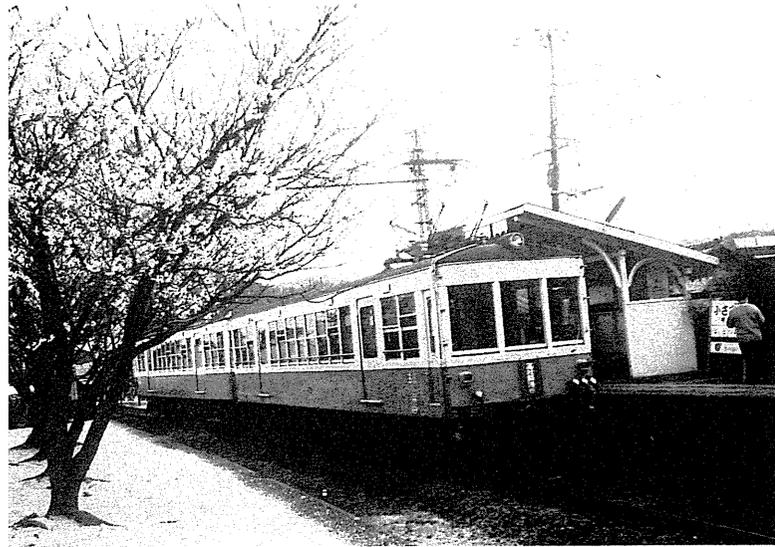
(註 昭和52年度ホーム15m延長, 56年度嵩上及び上屋増設, 61年度ホーム10m延長)



昭和45年頃の塩屋海水浴場前跡



昭和45年頃



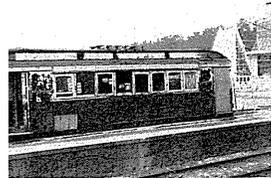
房前 駅

所在地 木田郡牟礼町原622番地1

創業時から、四国水力、讃岐電鉄時代まで海水浴場として賑わった。その後防波堤や護岸工事などで、使用できなくなり、塩屋海水浴場が誕生した。

この駅と隣の塩屋駅とは一番海岸寄りを走る区間に位置するので、秋の台風シーズンにはたびたび軌道が海水を冠り、運行不能になった事がある。

(註 昭和52年度ホーム15m延長)



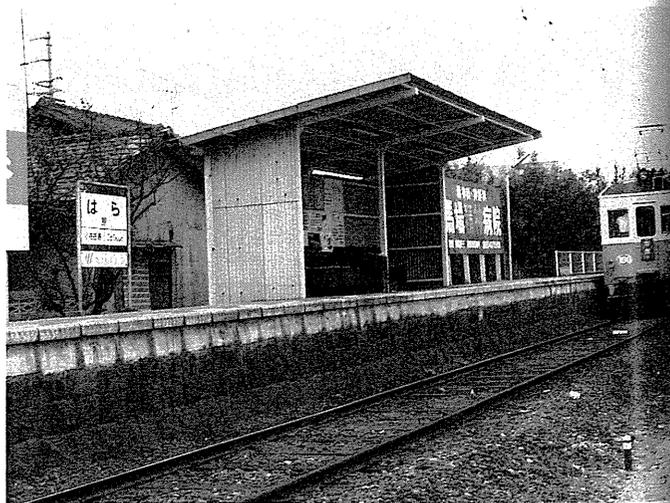
昭和45年頃

原 駅

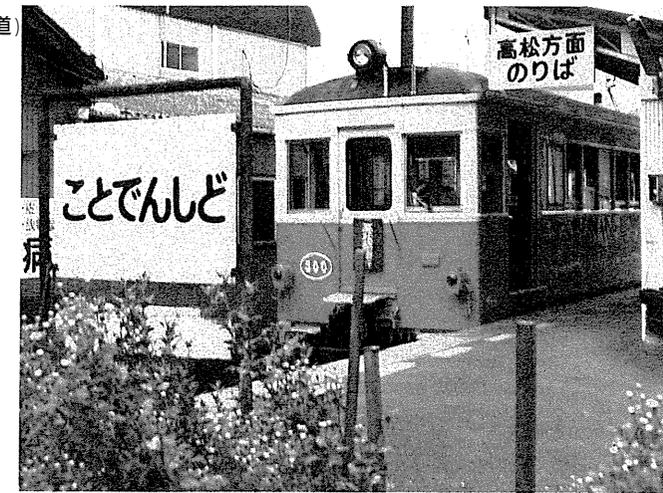
所在地 木田郡牟礼町原355番地2

明治44年開業以来の古い駅であるが、八栗-志度間路線撤去の一時期休止した。再開して間もない昭和24年11月、セメント瓦葺9.9㎡の停留所と乗降待合所を新築した。

この駅も高松バイパス道(現国道11号線)建設のため、昭和36年8月30日約10m北側へ寄せられた。(註 昭和52年度ホーム15m延長、58年度嵩上)



昭和45年頃



駅ホーム



志度 駅

所在地 大川郡志度町志度495番地7

志度線の終着駅である。創業当初は金屋八坂神社の南50mの地点にあったが、大正14年8月国鉄高德線開通により、約50m路線を延長して現在地に移転、駅名も志度から志度駅前と変更した。

その後、八栗-志度間の路線撤去により、復活するまで一時営業を休止した。昭和24年



昭和45年頃

10月9日休止区間復活にあたり、駅名を琴電志度と改め発足した。

また、開業時にはこの駅と原駅との間に志度西口駅があった、と記録にはあるが新会社に統合の昭和18年11月には既に廃止されている。(註 昭和50年度ホーム8m延長)

年表

年月日	会社の動き	年月日	社会の動き
昭和45年	(1970)	昭和45年	(1970)
4 1	大阪営業所を大阪支社と改称	5 31	南米ペルーで大地震, 死者71,000人余
6 1	大西社長高松商工会議所副会頭に就任	7 1	本四連絡橋公団発足
〃 25	全従業員大阪万国博見学旅行計画を発表	8 30	知事選, 金子知事6選
7 24	高松グランドホテル建設地鎮祭行われる	10 1	第20回国勢調査, 香川県人口907,769人
8 10	乗合バス引田線, 三本松線をワンマン運行開始	昭和46年	(1971)
9 16	乗合バス栗林線ワンマン運行開始	昭和46年	(1971)
11 15	1025号車, 1026号車使用開始	1 23	高松バイパス道建設工事(現国道11号線)により志度線松島四丁目-沖松島間の軌道に移設
〃 26	取締役関居正照辞任, 有馬正作就任, 監査役鎌田憲夫辞任, 松本幸夫就任	2 1	長尾線ダイヤを改正し, 所要時間の短縮を図る
昭和46年	(1971)	〃 10	各列車に無線電話を取付, 使用開始
1 23	高松バイパス道建設工事(現国道11号線)により志度線松島四丁目-沖松島間の軌道に移設	3 31	乗合バス下笠居線弓弦羽車庫新築
2 1	長尾線ダイヤを改正し, 所要時間の短縮を図る	〃 〃	瓦町変電所に2000KWシリコン整流器を増設
〃 10	各列車に無線電話を取付, 使用開始	4 1	瓦町駅に多能機種自動券売機を試験的に設置
3 31	乗合バス下笠居線弓弦羽車庫新築	〃 6	電車運賃を変更, 平均値上率28.7%
〃 〃	瓦町変電所に2000KWシリコン整流器を増設	7 20	低床バス三菱B820J3輛を, 全国に先がけ購入
4 1	瓦町駅に多能機種自動券売機を試験的に設置	8 15	乗合バス屋島山上線, 高田線ワンマン運行開始
〃 6	電車運賃を変更, 平均値上率28.7%	〃 20	志度線松島四丁目駅を松島二丁目と改称
7 20	低床バス三菱B820J3輛を, 全国に先がけ購入	9 30	マルチプルタイタンパーを購入し, 軌道整備の迅速化と合理化を図る
8 15	乗合バス屋島山上線, 高田線ワンマン運行開始	〃 〃	仏生山車庫に安全側線を新設
〃 20	志度線松島四丁目駅を松島二丁目と改称	10 15	高松グランドホテル開業記念乗車券を発売
9 30	マルチプルタイタンパーを購入し, 軌道整備の迅速化と合理化を図る	〃 28	高松グランドホテルを直営でオープン
〃 〃	仏生山車庫に安全側線を新設	11 15	乗合バス王越線, 琴平線ワンマン運行開始
10 15	高松グランドホテル開業記念乗車券を発売	〃 25	定期観光バス運賃変更, Aコース1,200円 Bコース900円
〃 28	高松グランドホテルを直営でオープン	12 29	1031号車, 1032号車使用開始
11 15	乗合バス王越線, 琴平線ワンマン運行開始	昭和47年	(1972)
〃 25	定期観光バス運賃変更, Aコース1,200円 Bコース900円	昭和47年	(1972)
12 29	1031号車, 1032号車使用開始	1 24	旧日本兵横井庄一さんグァム島で救出
昭和47年	(1972)		
3 18	乗合バス由佐線岩崎に車庫, 宿泊所を新設		
3 31	1033号車, 1034号車使用開始		

年月日	会社の動き	年月日	社会の動き
4 1	どさんこ築港, 片原町両店を北四国総業(株)に営業譲渡	3 15	山陽新幹線大阪, 岡山間開業
5 10	築港駅北側に立体駐車場竣工, 営業開始(収容能力60台)	5 15	沖縄27年ぶり祖国に復帰, 沖縄県誕生
6 1	ホテル事業を高松グランドホテル(株)に営業譲渡	8 26	第20回オリンピック, ミュンヘン大会開幕
〃 〃	取締役小西民夫, 常務取締役役に就任	9 29	日中国交回復
〃 〃	総務部を総務部, 経理部に分割	12 22	第2次田中内閣成立
〃 15	1035号車, 1036号車使用開始	昭和48年	(1973)
11 15	電車バス, ルート周遊券の発売を開始	2 19	阿讃導水トンネル貫通
12 20	乗合バス運賃変更, 賃率8円80銭, 市内均一40円	4 20	空海生誕1200年祭, 総本山普通寺で行う
〃 30	電車築港, 片原町, 瓦町の3駅に自動券売機設置	7 13	異状湧水, 高松市内に給水制限実施
昭和48年	(1973)	9 14	異常湧水にあたり, 当社井戸水を市民に提供し, 協高松市長より感謝状
2 1	電車運転取扱心得を全面的に改正	〃 29	乗合バス小田線ワンマン運行開始
3 1	80,000 ^円 を増資, 資本金280,000 ^円 となる	10 1	定期観光バス運賃変更, Aコース1,630円 Bコース1,080円
4 3	貸切バス運賃変更	11 1	創立30周年記念事業として, 市内御坊町興正寺別院で物故役職員慰霊祭, また社友会総会, 30年勤続者表彰など多彩な行事を行う
8 1	総務部に労務課, 庶務課, 経理部に審査課を新設	〃 〃	創立30周年記念乗車券発売
〃 11	創立30周年記念旅行計画を発表	12 4	取締役会長平井太郎参議院議員死去
〃 15	電車運賃変更, 普通, 定期とも対キロ制, 平均値上率31.3%	昭和49年	(1974)
9 14	異常湧水にあたり, 当社井戸水を市民に提供し, 協高松市長より感謝状	3 10	ルパン島で小野田元少尉救出
〃 29	乗合バス小田線ワンマン運行開始	〃 27	1027号車, 1028号車使用開始
10 1	定期観光バス運賃変更, Aコース1,630円 Bコース1,080円	〃 29	乗合バス西植田線ワンマン運行開始
11 1	創立30周年記念事業として, 市内御坊町興正寺別院で物故役職員慰霊祭, また社友会総会, 30年勤続者表彰など多彩な行事を行う	〃 30	自動車高松営業所, 松島自動車所を固定局とし, 各宿泊所間に無線電話を更新設置
〃 〃	創立30周年記念乗車券発売		
12 4	取締役会長平井太郎参議院議員死去		
昭和49年	(1974)		
3 14	乗合バス山田線山田車庫新設		
〃 27	1027号車, 1028号車使用開始		
〃 29	乗合バス西植田線ワンマン運行開始		
〃 30	自動車高松営業所, 松島自動車所を固定局とし, 各宿泊所間に無線電話を更新設置		

年月日	会社の動き	年月日	社会の動き
3 31	パラストスーパーを購入し軌道整備の効率化を図る		
4 3	監査役細溪宗次郎死去		
〃 8	乗合バス運賃自動精算装置導入		
5 25	取締役山谷清一辞任	5 30	香川用水通水式挙行
〃 27	監査役に山谷清一就任	7 15	日航機よど号東京国際空港でハイジャック
6 11	1029号車, 1030号車使用開始	8 25	知事選に革新系前川忠夫氏初当選
8 30	乗合バス運賃変更, 賃率13円20銭, 市内均一60円		
9 17	中型ライトバス三菱B623E 1輛を始めて購入, 一ッ内, 松尾線に配置		
〃 20	乗合バス穴吹線, 植田線(吉田橋便), 鹿角一宮線, 由佐池西線ワンマン運行開始		
10 25	定期観光バス運賃変更, Aコース2,050円 Bコース1,620円	10 5	佐藤栄作元首相ノーベル平和賞受賞
11 10	貸切バス運賃変更		
〃 26	取締役到大西孝道, 日下千智就任		
12 1	本社事務職員, 車輛課, 自動車部整備課日勤勤務者に(隔週々休2日制)実施	12 18	三菱石油水島精油所より重油流出
〃 20	乗合バス一ッ内, 松尾線ワンマン運行開始	昭和50年	(1975)
昭和50年			
2 7	電車運賃変更, 普通, 定期とも対キロ制を対キロ区間制に変更, 平均値上率31.2%		
3 1	電車駅務員及び乗務員, 電気課, 土木課, 自動車乗務員に年間6日休日増加		
〃 9	春日川改修工事ともない, 長尾線元山-水田間軌道移設	3 10	山陽新幹線岡山-博多間開業
〃 11	琴平線観光道路踏切に踏切交通信号機を取付	〃 16	栗林公園開園100周年, 各種記念行事開催
〃 24	専務取締役西本成吾死去		
〃 31	レーザ式踏切障害物検知装置を琴平線観光道路踏切に設置		
4 1	70,000 ^円 を増資, 資本金350,000 ^円 となる	4 5	台湾総統蒋介石死去
5 1	定期観光バス観光コースに屋島水族館組入れ	〃 9	国道11号高松南バイパス開通
〃 28	取締役に大西文弼, 石田敬, 小西敏照就任, 監査役山谷清一辞任, 大久保諒三郎就任		
〃 〃	商法改正ともない, 定款を一部変更		

年月日	会社の動き	年月日	社会の動き
6 1	総務部庶務課を廃止, 電車部技術課を技術部とし車輛課, 施設課を置き, 電車部に駅務課を新設	6 5	スエズ運河8年ぶりに開通
〃 17	本社3階高松デザイナー学院より出火, 損害軽微		
〃 30	南四国急行バス(株)営業を廃止		
7 19	苦張保養所オープン	7 20	沖縄国際海洋博開幕
12 28	乗合バス東植田線, 田中神山線ワンマン運行開始	9 30	天皇皇后両陛下ご訪米(1976)
昭和51年		昭和51年	
1 31	市内多賀町長尾線沿いに有料駐車場を設置	1 8	周恩来中国首相死去
3 1	740号車, 780号車, 790号車使用開始		
〃 31	仏生山整備工場増築		
〃 〃	畑田変電所に1500KWシリコン整流器を増設, 同変電所の1000KWシリコン整流器1基を高田変電所に移設	4 27	金毘羅大芝居(金丸座)移転復元工事完工
5 24	大西社長高松観光協会々長に就任		
6 28	71号72号(電動客車), 81号82号(制御客車)使用開始		
〃 30	大歩危綜合開発(株), 営業をイースタン開発(株)に譲渡し解散	7 27	田中角栄前首相逮捕
8 25	乗合バス運賃変更, 賃率15円90銭, 市内均一80円	9 9	中国の指導者毛沢東死去
11 26	73号(電動客車)使用開始		
〃 28	四国勤労者弓道選手権大会で田中誠一, 高橋志郎, 野島正夫組が団体優勝		
12 23	長尾線の電車線電圧600Vを1500Vに昇圧, 平木変電所を廃止	12 24	福田内閣成立
昭和52年		昭和52年	
1 21	電車運賃変更, 対キロ区間制, 平均値上率25.6%		
2 1	四国急行バス(株)営業を廃止	2 6	県下に異状寒波, 高松で水点下4.5度を記録
〃 〃	電車部運転課, 駅務課を管理課, 電車課に改組		
3 1	技術部施設課を土木課, 電気課に分離		
〃 31	香川県観光バス配車センター解散		
3 31	松島自動車所新築		
4 7	乗合バス西高線, 路線延長運行開始		
〃 24	31号車, 32号車使用開始		
5 26	定期観光バス運賃変更, Aコース2,800円 Bコース2,400円		

年月日	会社の動き	年月日	社会の動き
5 31	貸切バス運賃変更		
6 23	取締役有馬正作辞任, 中村朔之介就任, 監査役に山谷清一就任		
7 15	本社ビル, 高松グランドホテル防災工事完了	7 14	わが国初の気象衛星ひまわり, 打ち上げ成功
8 16	電車全線に特殊信号発光器, 出発反応灯を設置		
9 1	乗合バス西高線ワンマン運行開始	9 28	日航機ダッカで日本赤軍にハイジャック
" "	乗合バス宮脇線松島線の路線一部を変更, 西通線を大的場-市民病院間の運行とし, 栗林線を廃止		
10 1	70,000 ^円 を増資, 資本金420,000 ^円 となる	10 1	香川県が県章を制定
11 6	香川県弓道選手権大会で田中誠一が3年連続個人優勝		
" 13	四国勤労者弓道選手権大会で田中誠一, 藪下里子, 野島正夫組が団体優勝		
" 16	1051号車, 1052号車使用開始		
" 20	今橋検車庫新築		
" 23	香川県実業団弓道大会で団体Bチーム田中誠一, 藪下里子, 野島正夫組が優勝		
12 4	牟礼川改修による八栗駅構内嵩上げ工事完了, 本線路での運行再開		
" 10	長尾線のA.T.S.(自動列車停止装置)使用開始		
昭和53年	(1978)	昭和53年	(1978)
1 31	琴平線岡本駅新築		
" "	長尾線平木駅新築		
2 17	琴平線のA.T.S.使用開始		
3 29	33号車, 34号車使用開始	3 26	新東京国際空港開港
" 31	瓦町変電所を鉄筋コンクリート陸屋根3階建に新築		
5 15	35号車, 36号車使用開始		
6 1	瓦町変電所に1500KW及び1000KWシリコン整流器を設置運転開始	6 12	宮城県沖にM7.5の地震発生
9 1	乗合バス運賃変更, 賃率18円80銭, 市内均一100円	8 12	日中平和友好条約調印
10 16	今橋検車庫新築に関連して今橋駅構内を模様替え	10 1	香川医科大学開校
11 3	長尾線鹿伏踏切で上り電車がダンプカーが衝突し, 電車課運転手松本文夫が殉職	" 10	本四連絡橋児島一坂出ルートの新工式が行われる
昭和54年	(1979)	12 7	総理大臣大平正芳誕生
2 24	29号車, 30号車使用開始	昭和54年	(1979)

年月日	会社の動き	年月日	社会の動き
2 27	37号車, 38号車使用開始		
" 28	志度線八栗駅新築		
3 1	志度線のA.T.S.使用開始, 全線のA.T.S.設置完了	3 9	社会党前委員長長成田知己死去
" 31	琴平線三條駅新築, 志度宿泊所新築		
" "	乗合バス山田線ワンマン運行開始		
4 7	電車運賃変更, 対キロ区間制, 平均値上率13.3%		
5 22	大西社長香川労働基準協会々長に就任	6 10	香川用水基幹工事完了
7 7	貸切バス運賃変更		
10 15	宮崎県で開催の第34回国体でバドミントン部平井佐代子, 山田高子組が女子ダブルスで3位入賞	10 26	韓国朴大統領射殺される
" 23	乗合バス昼間割引回数券(お買物回数券)を発売	" 28	木曾御岳山有史以来の爆発
" 23	香川県実業団弓道大会で団体Aチーム高橋志郎, 田中誠一, 野島正夫組が優勝	11 9	第2次大平内閣成立
12 19	昭和60年度までに60才定年制度の実現と, 昭和57年4月1日以降定年57才実施を決定		
昭和55年	(1980)	昭和55年	(1980)
1 4	27号車, 28号車使用開始		
2 8	25号車, 26号車使用開始		
3 26	乗合バス東谷線, 日生ニュータウン乗り入れ	3 27	高松一坂出間有料道路開通
4 1	84,000 ^円 を増資, 資本金504,000 ^円 となる	6 12	大平首相死去
7 7	仏生山無人変電所新設, 1500KWシリコン整流器を設置し運転開始		
9 3	乗合バス運賃変更, 賃率22円60銭, 市内均一120円		
" 30	長尾線御坊川橋梁架け替え工事完成		
11 1	定期観光バス, ワンマン運行開始	11 14	500円硬貨の鋳造開始
12 20	滝宮無人変電所新設, 1500KWシリコン整流器を設置し運転開始, 畑田変電所は廃止		
" 25	乗合バス川島宿泊所新築		
昭和56年	(1981)	昭和56年	(1981)
3 28	1061号車, 1062号車使用開始	2 23	ローマ法王ヨハネ・パウロ2世来日
4 1	電車運賃変更, 対キロ区間制, 平均値上率17.4%		
" "	定期観光バス運賃変更, Aコース3,400円 Bコース2,960円	3 20	神戸ポートピア'81開幕
" 14	大西社長香川県体育協会々長に就任		

年月日	会社の動き	年月日	社会の動き
6 26	取締役小西敏照辞任, 桑田裕行就任, 監査役松本幸夫辞任, 有馬正作就任	8 6	仁尾太陽熱発電プラント最大出力1000KWを記録
7 1	新に不動産部を設置	10 6	エジプトサダト大統領狙撃され死亡
11 29	昭和3年及び同4年4月1日以降出生者は, それぞれ59才と60才に定年を延長, 昭和60年4月1日以降実施と決定	〃 19	福井謙一京大教授ノーベル化学賞受賞
12 29	1053号車, 1054号車使用開始	昭和57年	(1982)
昭和57年	(1982)	2 9	羽田沖で日航機墜落
1 22	貸切バス運賃変更	7 17	新県営球場生島町にオープン
3 31	(株)屋島水族館の株式譲り受け	8 29	前川知事3選
4 11	自動車部門を分離し, 高松バスと合併することについて, 組合に申し入れ	9 17	サッチャー英首相来日
7 1	技術部を廃止, 電車部に統合	11 27	中曽根内閣発足
9 1	乗合バス運賃変更, 賃率26円, 市内均一140円	昭和58年	(1983)
昭和58年	(1983)	2 19	運輸省新高松空港の設置告示
2 14	1013号車, 1014号車使用開始	4 24	脇高松市長4選
4 1	電車運賃変更, 対キロ区間制, 平均値上率10.1%		
〃 〃	定期観光バス運賃変更, Aコース4,020円 Bコース3,500円		
5 23	1015号車, 1016号車使用開始		
6 15	1017号車使用開始		
〃 29	取締役大西孝道辞任, 景山厚就任	8 3	高松地方気象台観測史上最高の猛暑37.5度
〃 〃	常務取締役安達達弘, 同小西民夫, 専務取締役に就任し, 取締役日下千智, 常務取締役に就任	9 1	大韓航空機サハリン沖でソ連機に撃墜
7 5	1063号車使用開始	10 3	三宅島雄山噴火
10 1	大西社長交通栄誉章緑十字銅章を受賞	〃 20	香川医大付属病院開院
〃 12	踏切道改良促進法による35次指定を受ける(保安設備)	11 9	レーガン米大統領来日
〃 20	乗合バス香川医大病院線運行開始		
11 4	四国勤労者弓道選手権大会で藤田久美子, 伊沢増美, 真鍋洋子組が団体優勝		
〃 18	乗合バス高德特急線, 徳島空港乗り入れ開始		
12 30	電車築港一岡本間10駅に自動案内放送装置を, また築港を除く9駅に前駅発車案内標も設置	昭和59年	(1984)
昭和59年	(1984)	4 29	柔道の山下国民栄誉賞を受賞
2 22	乗合バス運転免許センター線運行開始		

年月日	会社の動き	年月日	社会の動き
4 23	一部列車を六万寺駅まで延長運転開始	5 29	四国横断自動車道善通寺一豊浜(32.4km)の起工式行われる
5 3	長尾線詰田川橋梁架け替え工事完成	10 31	印度ガンジー首相暗殺
8 30	貸切バス運賃変更	11 1	新肖像の紙幣3種登場
9 1	乗合バス運賃変更, 賃率28円60銭, 市内均一150円	〃 〃	第2次中曽根内閣発足
12 24	冷房付1071号車, 1072号車使用開始	昭和60年	(1985)
昭和60年	(1985)	1 22	専務取締役小西民夫死去
1 22	専務取締役小西民夫死去	6 8	本四大鳴門橋開通
3 11	源平屋島合戦800年記念乗車券発売	6 27	琴平町の金毘羅大芝居で35年振りの歌舞伎上演
4 1	電車運賃変更, 対キロ区間制, 平均値上率8.2%	8 12	日航機群馬県御巢鷹山の中に墜落520人死亡, 4人が奇跡の生存
〃 〃	定期観光バス運賃変更, Aコース4,430円 Bコース3,850円	10 16	新高松空港起工式
5 1	琴平線挿頭丘一滝宮間5駅に自動案内放送装置及び前駅発車案内標設置	12 22	源平屋島合戦800年祭供養碑除幕式(屋島寺境内)行われる
6 27	四国こんびら歌舞伎大芝居に記念乗車券を発売	昭和61年	(1986)
〃 28	取締役石田敏辞任, 樋本敏雄, 千田穰一就任	2 26	68年開催の第48回国体準備委員会設立
11 16	自動車部門を分離, 高松バスと合併することについて, 組合との協議が妥結	4 5	高松市中央公園全面開園
昭和61年	(1986)	〃 26	ソ連チェルノブイリ原発で事故
2 5	バス事業分離に関する臨時株主総会を開催	7 6	衆参同日選挙自民圧勝
4 19	コトデンバス(株)に乗合貸切事業(大阪支社の貸切事業を除く)を営業譲渡	8 31	平井城一知事初当選
〃 〃	大阪支社を開発室所属に変更	9 6	土井たか子社会党々首となる
〃 26	長尾線長尾駅, 明治の面影を残して新築営業開始	〃 〃	伊豆三原山大噴火
7 3	大阪コトデンバス(株)設立	〃 28	国鉄民営化8法案成立
〃 16	大阪コトデンバス(株)に貸切事業(大阪地区)を営業譲渡		
11 12	政府管掌健保並びに厚生年金事業の発展に尽力し, 社会保険庁長官より表彰		
〃 23	大西社長労働大臣より表彰		
12 4	冷房付1073号車, 1074号車使用開始	昭和62年	(1987)
昭和62年	(1987)	1 1	電車部に庶務課新設, 秘書を秘書室と改称
1 1	電車部に庶務課新設, 秘書を秘書室と改称	〃 29	市内塩上町に有料駐車場完成
〃 29	市内塩上町に有料駐車場完成	2 13	琴平線滝宮一琴平間6駅に自動案内放送装置及び前駅発車案内標を設置, 琴平線完了
2 13	琴平線滝宮一琴平間6駅に自動案内放送装置及び前駅発車案内標を設置, 琴平線完了		

年月日	会社の動き	年月日	社会の動き
4 1	冷房付1075号車, 1076号車使用開始	4 1	国鉄分割J R 四国発足
4 7	一宮駅を香川中央高校開校にあわせて移設, 駅舎ホームを新築のうえ, 15分間隔で運転開始		
6 26	取締役桑田裕行辞任, 木村崇也就任, 監査役山谷清一辞任, 大西孝道就任		
〃 〃	取締役中村朔之介, 常務取締役に就任		
7 1	電車部より技術部を分離, 電車部に管理, 電車の2課と, 技術部に車輛, 土木, 電気, 庶務の4課を設置, 不動産部を廃止	9 22	天皇陛下ご手術
〃 9	市内栗林町旧本社跡に有料駐車場完成	10 16	台風19号三木町はじめ県下に大被害
10 11	香川県実業団弓道大会で団体Aチーム長山正, 大江景子, 田中誠一組が優勝	11 6	竹下内閣発足
〃 16	台風19号により電車全線に大きな被害	12 16	四国縦貫自動車道善通寺-三島川之江間(38.4km)開通
昭和63年	(1988)	昭和63年	(1989)
1 1	初詣1日フリー乗車券発売		
1 23	'88瀬戸大橋博入場券を関係会社を含む全従業員に配布	3 13	青函トンネル津軽海峡線(53.8km)開業
3 14	一宮町造成地起工式	〃 20	瀬戸大橋架橋記念博覧会開場
〃 15	社友会総会で会長に山谷清一選任	4 9	J R 宇高連絡船姿消す
4 1	電車内終日禁煙, 待合所, 駅構内禁煙タイム実施	4 10	本四連絡橋(児島・坂出ルート)瀬戸大橋完成
〃 〃	'88さぬき四大イベント記念乗車券発売	5 22	全国植樹祭皇太子殿下ご臨席, 満濃町で挙行
5 26	懐古調の新琴平駅完成竣工式, 同日営業開始	8 7	市立新美術館オープン
〃 〃	琴平駅新築記念乗車券発売	〃 20	イ・イ戦争8年ぶり停戦
7 8	一宮造成地を琴電一宮ニュータウンと命名	9 17	第24回ソウル五輪開幕
8 1	明るい挨拶と, 喜ばれるサービスをスローガンにサービス向上運動を実施	〃 19	天皇陛下ご重体
12 11	1000型車輛鉄道友の会より「エバーグリーン賞」受賞	昭和64年	(1989)
〃 14	冷房付1081号車, 1082号車使用開始	1 7	天皇陛下崩御昭和天皇と諡
昭和64年	(1989)	平成元年	
1 1	新に企画部を設置	2 24	164ヵ国から代表が出席大喪の礼行われる
平成元年		4 1	消費税実施
3 24	大西社長交通栄誉章緑十字銀章を受賞		
4 1	消費税実施に関連して電車運賃変更, 平均値上率8.4%		

年月日	会社の動き	年月日	社会の動き
4 1	全職員に年間3日の有給休日を新設増加し, 事務職員については勤務時間を一部変更	4 25	竹下首相退陣を表明
6 17	前社友会々長漆原辰雄死去, 葬儀委員長に大西社長	6 3	宇野内閣成立
〃 〃		〃 4	中国北京市の民主化運動に軍の弾圧, 死者多数
6 29	常務取締役日下千智, 専務取締役に就任	〃 17	運輸省は新高松空港の開港日を12月16日と決定
7 18	冷房付1083号車, 1084号車使用開始	8 10	海部内閣発足